

一期	該年九月一日ヨリ	同	同	同	同	同	同	同	同
二期	該年十一月十日ヨリ	同	同	同	同	同	同	同	同
三期	該年十二月十六日ヨリ	同	同	同	同	同	同	同	同
四期	翌年一月十八日ヨリ	同	同	同	同	同	同	同	同
五期	同 二月二十日ヨリ	同	同	同	同	同	同	同	同
六期	同 三月二十日ヨリ	同	同	同	同	同	同	同	同

如方及宅地山 五分
 林原野牧場 五分
 田方 二分五厘
 同 二分五厘
 同 二分五厘
 同 二分五厘

○田畑地價特別修正 明治二十二年八月二十六日 法律第二十二號

朕地租改正以來ノ實歴ニ徴シ此法律ニ指定スル府縣ノ田畑ニ限リ地價低減ノ必要ヲ認メ地價ノ特別修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 田畑地價ノ特別修正ヲ爲スヘキ府縣國郡及其修正地價總額左ノ如シ
- 第二條 (府縣國郡地價略ス) 修正地價總額ニ依リ低減スヘキ市町村田畑ノ地價額ハ大藏大臣之ヲ定メ府縣知事ヲシテ達セシム
- 第三條 此法律ニ依リ地價ヲ低減シタル田畑ノ地租ハ明治二十三年分ヨリ其修正地價ニ依リ之ヲ徵收ス

○所得稅法 明治二十年三月十九日 勅令第五號

朕所得稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 所得稅法
- 第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ
 - 第二條 但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス
 - 第三條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ
 - 第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス
 - 第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及ヒ雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス
 - 第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ但所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ
 - 第四條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

田畑地價特別修正 所得稅法

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給
 第二 官私ヨリ受クル旅費、傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料
 第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
 第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	所得金	稅率
第一等	所得金高三萬圓以上	百分ノ三
第二等	所得金高貳萬圓以上	百分ノ二半
第三等	所得金高壹萬圓以上	百分ノ二
第四等	所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等	所得金高三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ同位未滿ノ端數ヲ算セス
 第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ
 第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日
 マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ
 第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル
 調査ヲ爲サシム
 調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ
 調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辞スルコトヲ得ス
 第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ
 限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一
 款第二款第三款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス
 第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格
 ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコト
 ヲ得
 町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スヘシ
 第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス
 但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム
 第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス
 第十三條 郡區長ハ第六條ノ届書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其届書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ
 第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ
 所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ
 第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區
 長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム
 第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半
 數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議
 ニ與ルコトヲ得ス
 第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ
 第十九條 納税者ニ於テ所得税ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證憑トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ
 第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納税後ニ涉ルトキハ税額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此税法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納税者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得税ノ調査ニ關スル者ハ納税者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納税者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其税額ヲ減シ所得金高一箇年二百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免税スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ陰蔽シテ逃税シタル者ハ其逃税金高二倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サル者ハ壹圓以上壹圓九十錢以下ノ科料ニ處ス
 第二十七條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
 第二十九條 此税法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス
 但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當金、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス
 附則
 本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日マテニ差出スヘシ

○所得税法施行細則 明治二十年五月五日 大藏省令第八號

所得税法施行細則左之通相定ム

- 所得税法施行細則
- 第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納税スヘキモノトス
 - 第二條 税法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス
 - 第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ
 - 第四條 税法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ
 - 第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納税管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此税法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一 此税法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ

第八條 納稅者他ノ郡區役所所轄内ニ轉居セントスルトキ及ヒ轉居シタルトキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノノ所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一箇人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ税法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及ヒ調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事故アルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 税法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事冲繩縣知事之ヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半數出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ忘リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則 (二十年大藏省令第十
三號ヲ以テ本則改正)

本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ
(書式略ス)

○所得稅納稅者届出書面ノ誤謬訂正申出ノ時取扱方

明治二十一年七月九日
大藏省訓令第三十五號

所得稅納稅者届出タル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルトキハ郡區長之ヲ審査シ其事實明

所得稅納稅者届出書面ノ誤謬訂正申出ノ時取扱方

確ト認ムル者ニ限リ左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

- 第一項 調査委員開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ
- 第二項 届出ノ重複ニ涉レル者ハ調査委員會決議後ト雖モ郡區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ得
- 第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後ニ係ル者ハ所得税法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

○市制町村制施行地ノ所得税ニ關スル件 明治二十二年四月二十二日 法律第十四號

朕市制町村制施行地ノ所得税ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得税法第六條ノ届書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄内及市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ選舉シ第九條ノ調査委員ノ選舉人被選舉人ノ現任ハ調査委員會設置區域内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ選舉人ヲ定メ第十七條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘシ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

○酒造稅則 明治十三年九月二十七日 太政官布告第四十號

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事 (別冊)

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲管廳ニ於テ相當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スカ若ハ資產ヲ有スル保證人ヲ立ツルニアラサレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ (二十三年法律第四十九號ヲ以テ本項以下追加)

一 第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

二 酒類造石稅ノ滯納處分ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 所有不動産ノ價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル者

保證物ノ種類及保證人ニ要スル條件ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒

二類 蒸溜酒

三類 再製酒

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ (十五年第六十一號布告ヲ以テ稅額ノ項共改正)

酒造免許稅

市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件 酒造稅則

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項造石高各項共追加)

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒 百石

濁酒 拾石

一類 清酒濁酒 二類 三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第六條 免許鑑札買賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシトキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本條改正)

第九條 造石税ハ左ノ四期ニ納ムヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本條改正)

第一期 四月十五日限

十月一日ヨリ一月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 八月十五日限

二月一日ヨリ五月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 十一月十五日限

六月一日ヨリ九月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ全數並ニ第一期第二期ニ係ル殘納額ノ半數

第四期 一月十五日限

前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ

其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石税四分ノ一ニ滿タサル場合ニ

於テハ第一條第二項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立テシムヘシ

前項ノ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立サルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済酒類ニ係ル造石

税ヲ納メシムヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本條改正)

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納

ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 検査済酒類納税以前ニ於テ腐敗シ若ハ天災其他避クヘカラサル事故ニ依リ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ其造石税免除ヲ請フコトヲ得(二十三年法律第四十條九號ヲ以テ本條改正)

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ(二十三年法律第四十條五號ヲ以テ以下削除)

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒も其仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳へ届出ツ可シ(十六年第六號布告)
造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得シテ諸器械ヲ酒造場外へ移スコトヲ許サス(十六年第六號布告)
(二十三年法律第四十條九號ヲ以テ本項削除)

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及酒もトヲ販賣スルヲ許サス(十五年第十七號布告ヲ以テ但書)

但事故アリテ酒もトノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ在ラス(十五年第十七號布告)

第二十二條 他ノ依託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

検査既済ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 酒造器機ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ本條改正但書追加)

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加十六年第二十六號布告ヲ以テ第十四條ノ下又ハ云云ノ六字ヲ刪ル)

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(十六年第六號布告ヲ以テ本項改正)

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ但書追加)

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ但書追加)

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

○酒造稅則附則 十九年勅令第六十號ヲ以テ改正

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ糖油等ニ混和シテ供給スルモノ)ヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一 酒類受卸賣營業者

一 飲食店又ハ旅館屋營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石(二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得

- 第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌ヲ得ス
- 第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス
- 第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ
- 第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス
- 第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ
- 第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○替麴營業稅則 明治十三年九月二十七日太政官布告
第四十一號

替麴營業稅則別冊之通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

替麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

- 第一條 凡ソ替麴釀造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管應ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

金五拾圓

替麴營業稅

- 第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス
- 第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管應ヘ納ムヘシ
- 第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管應ヘ届出ヘシ
- 第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管應ヘ差出シ検査ヲ受クヘシ
- 第六條 替麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ(十五年第六十二號布告ヲ以テ本項追加)
- 第七條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管應ニ差出シ書換ヲ請フヘシ
- 第八條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管應ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
- 第二章 禁令 罰令
- 第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス
- 第十條 免許鑑札ヲ受ケス替麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徴スヘシ
- 第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少カラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ
- 第十二條 替麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣替麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類替麴ヲ製造スルヲ許サス(十五年第六十二號布告ヲ以テ追加)
- 第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)

十六年第四十
三號布告
營業稅則ニ關
シ犯罪アルト
キ租稅官吏處
分方參看
十四年第七十
二號布告罰例
處断方參看

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六拾貳號)
 第十五條 替廻營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯タル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六拾貳號)
(布告ヲ以テ追加)

○酒精營業稅法 明治二十六年四月二十日
 法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒精營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

酒精營業稅法

第一條 酒精(アルコール)又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス

甲種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者

乙種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスシテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者

第二條 本法ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 營業ノ免許ヲ受クル者ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ保證金トシテ十圓以上千圓以下ヲ現金又ハ國債證券ヲ以テ供託スヘシ

第四條 本法ノ税金ヲ滯納シタルトキハ保證金ノ一部又ハ全部ヲ以テ税金ニ充ツ仍不足スルトキハ明

治二十二年法律第三十二號國稅滯納處分法ニ據テ處分スヘシ
 第五條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ

甲種營業人

酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

乙種營業人

酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

營業人ヲ經由セスシテ第一條ノ物品ヲ買取り消費スル者ハ本條ニ準シテ納稅スヘシ

第六條 營業稅ハ翌年一月三十一日限之ヲ納ムヘシ但シ廢業スル者ハ其ノ際營業稅ヲ納ムヘシ

前項ノ期限内ト雖營業稅高第三條ノ保證金高ニ超過スルトキハ先ツ其税金ヲ納メテ後之ヲ販賣スヘシ

第七條 第一條ノ物品ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者(造酒家ヲ除ク)ハ勅令ヲ以テ定ムル所ノ規定ニ

從ヒ其營業稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第八條 營業者帳簿ヲ調製シ第一條物品ノ出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ主任官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條 主任官吏ハ正當ノ命令ニ依リ營業者ノ營業ニ關スル帳簿物品等ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十條 無免許ニテ營業シタル者ハ其現在酒精類及營業用ノ物品機械ヲ沒收シ營業稅三倍ノ罰金ニ處

ス但シ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若ハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上五

百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 帳簿ノ調製記載ヲ忘リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十三條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第十四條 本法ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

○醬油稅則 明治二十一年六月十六日 勅令第四十七號

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

第一條 醬油溜チ併製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
 第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ
 營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓
 造石稅 醬油ハ諸味一石ニ付 金壹圓
 溜ハ製成一石ニ付 金壹圓
 第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ
 第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限
 一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定濟ノ醬油ト査定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於

テ第五條ノ査定ヲ受ク及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ス

トキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借買賣及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石

數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ

場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石税ノ査定ヲ經タル醬油其造石税納期内ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ檢査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依托ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此税則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及連稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受サル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此税則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條 此税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此税則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此税則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此税則ヲ施行セス但此税則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此税則ニ從フヘシ

第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

○菓子稅則 明治十八年五月八日太政官布告 第十一號

菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」沖繩縣「札幌縣根室縣」ハ當分之ヲ施行セス

(別紙)

菓子稅則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人 菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人 菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人 菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓 (二十一年勅令第八號ヲ以テ)

雇人一人アル者 一箇年 金三圓 (二十一年勅令第八號ヲ以テ本項追加)

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓 (二十一年勅令第八號ヲ以テ)

雇人一人アル者 一箇年 金三圓 (二十一年勅令第八號ヲ以テ本項追加)

菓子稅則

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)
 雇人一人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)
 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓
 雇人二人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)
 雇人一人アル者 一箇年 金貳圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)
 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス
 露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ限期ニ從ヒ納ムヘシ
 第一期 一月一日ヨリ六月三十日 其年八月三十一日限
 第二期 七月一日ヨリ十二月三十日 翌年二月二十八日限

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス
 一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限
 七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム(二十一年勅令第八號ヲ以テ)

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十六條 (二十一年勅令第八號ヲ以テ) 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第十七條 第十二條第十三條ノ届出ニ詐僞ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(二十一年勅令第八號ヲ以テ)

第十八條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(二十一年勅令第八號ヲ以テ)

第二十條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ輕減再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○煙草稅則 明治二十一年四月六日 勅令第二十號

朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管應ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未ト年瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル爲メ

證約狀ヲ管應ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス

證約金額營業場一箇所毎ニ 五十圓以上 五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管應ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入賣出ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管應ニ申出鑑札

ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受クル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納

ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他

證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當

スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙税ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十七條 煙草耕作人ニ限り自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ルト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十八條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十九條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ製造營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十一條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證券ヲ携帶スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脱ニ係ル營業税三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業税三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脱税ヲ謀リ又ハ脱税シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ忘リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第三十條 此税則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ 廢シタルトキハ其代金ヲ追徴ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス
 煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡腫ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス
 第三十三條 煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
 第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ
 第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管應ニ届出ヘシ
 第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管應ニ差出スヘシ
 第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ
 第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得
 前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○證券印稅規則 明治十七年五月一日
 太政官布告第十一號
 明治七年^七第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス
 但明治八年^七第二百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ
 第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ
 金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得
 一 當座預リ金引出小切手 印稅 五 厘
 一 委任狀 同 五 厘
 一 金高記載ナキ約定證文 同 一 錢
 一 遺物證文 同 一 錢
 一 跡式讓證文 同 壹 錢
 一 讓與證文 同 壹 錢
 一 期限ヲ定メサル預リ金證文 同 壹 錢
 一 耕地小作證文 同 壹 錢

雇人請合狀	同	壹	錢
金高記載ナキ諸物品預リ證文	同	壹	錢
金高記載ナキ諸物品借用證文	同	壹	錢
地所預リ證文	同	壹	錢
家屋預リ證文	同	壹	錢
諸物品切手	同	壹	錢
借地證文	同	壹	錢
借家證文	同	壹	錢
賣買仕切書	同	壹	錢
保險證文	同	壹	錢
諸會社株券	同	壹	錢
送金手形	同	壹	錢
金錢通帳 一年以内一冊ニ付	同	壹	錢
諸物品通帳 同	同	貳拾	錢
諸物品判取帳 同	同	壹	錢
結社約定書	同	壹	錢
但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシ			
ト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ			
左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ	印稅	壹	錢
一 營業ニ關スル送狀	同	壹	錢
一 營業ニ關スル請取書	同	壹	錢
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ			

第二類			
左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ			
但爲替手形約束手形ハ手形印紙ヲ用フヘシ			
一 金錢借用證文	印稅	壹	錢
一 地所賣買證文	同	貳	錢
一 家屋賣買證文	同	四	錢
一 金高記載アル諸物品預リ證文	同	六	錢
一 金高記載アル諸物品借用證文	同	八	錢
一 諸物品賣買證文	同	拾壹	錢
一 金錢定期預リ證文	同	拾壹	錢
一 金高記載アル諸般ノ契約證書	同	拾四	錢
一 金高壹圓以上貳拾圓未滿	同	貳拾	錢
一 金高貳拾圓以上五拾錢未滿	同	貳拾	錢
一 金高五拾圓以上百圓未滿	同	貳拾	錢
一 金高百圓以上百五拾圓未滿	同	貳拾	錢
一 金高百圓以上三百圓未滿	同	貳拾	錢
一 金高貳百圓以上四百圓未滿	同	貳拾	錢
一 金高三百圓以上六百圓未滿	同	貳拾	錢
一 金高四百圓以上八百圓未滿	同	貳拾	錢
一 金高六百圓以上八百圓未滿	同	貳拾	錢

證券印稅規則

金高八百圓以上千圓未滿	同	三拾貳錢
金高千圓以上千四百圓未滿	同	三拾八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿	同	四拾四錢
金高千七百圓以上貳千圓未滿	同	五拾錢
金高貳千圓以上貳千五百圓未滿	同	六拾錢
金高貳千五百圓以上三千圓未滿	同	七拾錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿	同	八拾錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿	同	九拾錢
金高四千圓以上	同	壹圓
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ	印稅	四錢
金高百圓未滿	同	四錢
金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ	金錢當坐預リ證文	
一 質物預リ書	一 金高壹圓以上貳拾圓未滿	同 貳錢
一 金高貳拾圓以上	右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ	同 貳錢
一 金高百圓未滿	金高百圓未滿	同 四錢
一 金高百圓以上	金高百圓以上	同 四錢

一 爲替手形	一 荷爲替手形	一 約束手形	一 金高五拾圓未滿	同	貳錢
一 金高五拾圓以上百圓未滿	同	同	同	同	四錢
一 金高百圓以上貳百圓未滿	同	同	同	同	八錢
一 金高貳百圓以上五百圓未滿	同	同	同	同	拾五錢
一 金高五百圓以上千圓未滿	同	同	同	同	貳拾五錢
一 金高千圓以上貳千圓未滿	同	同	同	同	五拾錢
一 金高貳千圓以上	同	同	同	同	五拾錢
第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラヌ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ	第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此ニ限在ラス	第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ	第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム	第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス	第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送リ狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

證券印稅規則

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

- 一 官廳ヨリ差出ス證書帳簿
 - 一 官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書
 - 一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書
 - 一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
 - 一 金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書
 - 一 諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書
 - 一 罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書
 - 一 切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書(廿三年四月法律第百三十三號ヲ以テ追加)
- 第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ
- 第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ
- 第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿チタルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

ル紙數ヲ記載スヘシ

- 第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ニ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得
- 第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱稅高二十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ
- 第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ
- 第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル料料罰金ノ半額ニ相當スル料料又ハ罰金ニ處ス
- 第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ検査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス
- 第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○賣藥印紙稅規則 明治十五年十月二十七日 太政官布告第五十一號

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一	定價壹錢迄	印稅壹厘
一	同 貳錢迄	同 二厘
一	同 三錢迄	同 三厘
一	同 五錢迄	同 五厘
一	同 拾錢迄	同 壹錢
以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス		
第二條	印紙種目ハ左ノ如シ	
壹厘	淡色	
貳厘	青色	
三厘	黃色	
	黑色	
	茶褐色	
	赭色	
	綠色	
	濃青色	
	橙黃色	
	紫色	
	深紅色	

五厘 茶褐色

壹錢 赭色

貳錢 綠色

三錢 濃青色

四錢 橙黃色

五錢 紫色

拾錢 深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

(印紙貼用雜形略之)

○船稅規則 明治十六年四月十七日太政官布告 第十三號

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス 但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

(別冊)

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新製造船舶シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假

鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑

札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札

ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船

同 風帆船

日本形船積石五拾石以上

百噸ニ付一年金拾五圓

同 同 金拾圓

百石ニ付同 金貳圓

十八年第十
號布告ヲ以テ
日本形五百石
以上ノ船舶製
造ヲ二十年一
月ヨリ禁止ス

同 積石五拾石未滿 自舳梁 三間迄ハ一年金二拾錢

解漁船小廻船石積ニ拘ラス 長 至舳梁

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船 長 自舳梁 三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船并解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還

納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其

旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」船ノ類

第二章 納稅

船稅規則

第十一條 税金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徴收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新製造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル税金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ税金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徴ス

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ其脱稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

第三章 罰則

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徴ス

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ其脱稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○車稅規則 明治八年二月二十日太政官布告

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限リ相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年二月二十一號布告解船并ニ海川小廻船等船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

第一則

- 一 馬車二疋立以上 一箇年税金三圓
 - 一 同 一疋立 一箇年税金貳圓
 - 一 荷積馬車 一箇年税金壹圓
 - 一 人力車貳人乘 一箇年税金貳圓
 - 一 同 一人乘 一箇年税金壹圓
 - 一 牛車 一箇年税金壹圓
 - 一 荷積大七八八車 一箇年税金五拾錢
 - 一 荷積中小車但大六以下 一箇年税金五拾錢
- 第二則 新調ノ車ハ總テ其都度區戸長へ届出檢印可申受事
- 第三則 但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事
- 第三則 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長へ取集メ其管轄廳へ可相納事
但前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り其管轄廳へ可相納事(十一年第四號布告ヲ以テ納稅期改正)

第五則 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事
附則(二十一年勅令第七號ヲ以テ本則追加)

北海道廳管内ニ限り第一則ニ掲ケル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七六八車荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

○牛馬賣買規則

明治五年十一月四日
太政官布告第三百二十號

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ從ヒ處罰可致事

牛馬賣買規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬一鼻綱ニ付免許鑑札一枚相渡可申事
但一鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限リ鑑札一枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七疋以内ニ限リ所持スル者ハ十四

疋ニ限ルヘシ其餘準之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事(七年第四十五號布告ヲ以テ改正)

第三條 免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ケ年税金一圓上納可致事
但右税金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限各管轄廳へ取立租稅「寮」へ上納可致

尤新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事(八年第百十五號布告ヲ以テ但書改正)
十一年第四號布告ヲ以テ納稅期改正

第五條 免許鑑札燒却并押切判ハ雜形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稜人共へ相渡可申事

但鑑札相渡次第稜人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代并科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事(七年第百三十一號布告ヲ以テ但書追加)

但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事(八年第百六十六號布告)

牛馬賣買規則

ナ以テ但
書共追加

但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金貳拾錢可相納事
(雛形略之)

○國稅徵收法 明治二十二年三月十三日
法律第九號

朕國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章 總則

- 第一條 國稅ハ關稅ヲ除ク外總テ此法律ニ據テ之ヲ徵收ス
- 第二條 市町村ハ其市町村内ノ地租ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務アルモノトス
前項ノ事務ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス
- 第三條 其他ノ國稅ハ勅令ヲ以テ命スルトキハ前條ノ例ニ依ル
前項ノ場合ニ於テハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其市町村ニ交付スヘシ
- 第四條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ
- 第五條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ府縣知事ヲ經テ其責任免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得
- 第六條 納稅人納期限ヲ過キ國稅ヲ完納セサルトキハ別ニ定ムル所ノ法律ニ據リ之ヲ處分ス

第七條 國稅納期ノ末日日曜日又ハ大祭日祝日ニ當ルトキハ其翌日ヲ以テ納期ノ末日トス

第二章 徵收

- 第八條 地租及勅令ニ依リ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵收スルトキハ市町村ニ對シ其他ノ國稅ヲ徵收スルトキハ各納稅人ニ對シ府縣知事徵稅令書ヲ發スヘシ(廿二年法律第廿三號ヲ以テ改正)
- 第九條 市町村長ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ發布スヘシ
- 第十條 納期アルモノハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外該納期ノ十五日以前納期數日ニ涉ルモノハ初日ノ十五日以前ヲ云フ隨時收入ニ係ルモノハ其納期日ヲ定メ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發スヘシ
- 第十一條 第八條第一項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ稅金ヲ市町村收入役ニ拂込ミ其領收證ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス但町村會ノ議決ヲ以テ町村長ニ收入役ノ事務ヲ委任スルコトヲ得
- 第八條第二項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ稅金ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其納稅義務ヲ了ルモノトス
- 第十二條 市町村長ハ市町村收入役ニ於テ受領シタル稅金ヲ受取之ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其義務ヲ了ルモノトス
- 第十三條 市町村長ハ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ其滯納ノ稅目金額及滯納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ
- 第十四條 納稅人他ノ負債ニ依リ身代限リノ處分ヲ受ルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ未タ其納期ニ至ラサルモ他ノ債主ニ先チ其稅金ヲ徵收スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ酒類醬油造石稅ニ限リ其課額既ニ定リタル稅金ハ未タ其納期ニ至ラサル他ノ債主

ニ先テ之ヲ徵收スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テ負債ノ抵償物件中徵收ヲ要スル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノアルトキハ其賣却代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充テタル後税金ヲ徵收スヘシ

第十六條 地方稅備荒儲蓄金市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財産ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅ヲ先取スヘシ

第三章 期滿免除

第十七條 徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發セスシテ納期限ノ翌日ヨリ起算シ滿三年ヲ經過スルトキハ納稅人ハ其義務ヲ免ル、モノトス

第十八條 納稅人法律命令ヲ犯シ脫稅ヲナシタル場合ニ於テ其公訴ノ期滿免除ト爲ルトキハ其稅脫金ノ追徵モ亦同時ニ免ル、モノトス

第十九條 國稅期滿免除ノ期限内ニ於テ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發シタルトキハ期限ノ經過ヲ中斷スルモノトス

期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタルトキハ更ニ其翌日ヨリ期限ヲ起算スヘシ但前後ノ日數ヲ通算シ滿五年ヲ過ルコトヲ得ス

第四章 附則

第二十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ據リ市町村ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十一條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原嶋伊豆七島ニハ當分ニ之ヲ施行セス

○國稅徵收法施行細則 明治二十三年二月十二日 大藏省令第三號

明治二十二年三月大藏省令第五號國稅徵收法施行細則左之通改正シ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

國稅徵收法施行細則

第一條 徵收法第八條市町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號第二號様式ニ依リ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ

第二條 府縣知事ニ於テ徵稅令書ヲ發シタルトキハ該納額ヲ收入官吏ニ送スヘシ

第三條 市町村長ニ於テ地租船車稅ノ徵稅傳令書發付後納期限以前ニ於テ土地若クハ船車ノ所有權移轉又ハ土地ノ質入ニ係ルモノアルトキハ彙キノ傳令書ヲ更正スヘシ

第四條 各納稅人ニ於テ税金ヲ金庫ニ納付スルトキハ徵稅令書ヲ添付スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ税金ヲ金庫ニ納付スルトキハ第四號様式ノ納付書ヲ添付スヘシ

第六條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十三號第十五條及第十六條ニ據リ金庫ニ拂込ムヘシ

第七條 各納稅人若クハ市町村長ハ税金ヲ金庫ニ納付シタルトキハ即時別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ收入官吏ニ請フヘシ

第八條 各納稅人若クハ市町村長ヨリ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ請フトキハ收入官吏ハ即時ニ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

第九條 收入官吏ハ其切離シタル別符ニ領收證檢印濟ノ年月日ヲ記入シ其傍ニ檢印シ之ニ據リ收入

簿及徵稅簿ニ記入スヘシ

第十條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第二號ノ領收證ヲ發シ同時ニ收入簿及徵稅簿ニ記入スヘシ

第十一條 府縣知事ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ收入官吏ノ拂込ニ係ル税金領收濟ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適宜帳簿ヲ設ケテ之ヲ記入シ置クヘシ(二十六年省令第三十三號以テ改正)

第十二條 削除(全上)

第十三條 削除(全上)

第十四條 收入官吏ハ毎日領收證ヨリ切離シタル別符及拂込額ノ總計金額ト金庫ヨリ毎日報告スル税金領收日計表ノ金額ト照查スヘシ

第十五條 分任收入官吏ハ明治二十六年大藏省令第三十二號書式第四號ニ準シタル收入報告書ヲ調製シ歲入金突合表ヲ添ヘ翌月五日迄ニ其地ヲ差立主任收入官吏ヘ送付スヘシ(二十六年省令第三十三號以テ改正)

第十六條 主任收入官吏ハ分任收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ收入簿ノ記入ヲ爲シ更ニ之ヲ總計シタル收入報告書ヲ調製シ歲入金月計對照表ヲ添ヘ府縣知事ヲ經テ翌月十五日迄ニ其地ヲ差立大藏省ヘ送付スヘシ(全上)

第十七條 收入官吏ハ第五號第六號様式ニ據リ徵稅簿ヲ備ヘ調定額、收入額收入未濟額缺損額ヲ記載スヘシ

第十八條 收入官吏ニ於テ調製セル收入簿現金出納簿ハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第十四號及十八號ニ依ルヘシ

第十九條 分任收入官吏ハ第七號様式ニ據リ收入額收入未濟額及缺損額報告書ヲ調製シ各納期後五

十日以内ニ其地ヲ差立收入官吏ヘ送付スヘシ(二十六年省令第三十三號以テ改正)
第二十條 主任收入官吏ハ前條ノ報告ヲ取纏メ更ニ同式ノ報告書ヲ調製シ府縣知事ヲ經テ各納期後六十日以内ニ其地ヲ差立大藏省ヘ送付スヘシ(全上)
第二十一條 削除(全上)
(様式略ス)

○國稅事務取扱ノ件 明治二十二年五月八日 勅令第六十三號

朕國稅事務取扱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年七月一日以降各郡市役所所在地ニ府縣收稅部出張所ヲ設ケ收稅屬ヲシテ左ニ掲クル事項ヲ取扱ハシム

- 一 土地帳臺及地圖ニ關スル事項
- 一 國稅ヲ課スル諸營業鑑札下付ニ關スル事項
- 一 船車檢印ニ關スル事項
- 一 諸印紙賣下ニ關スル事項
- 一 市ノ國稅徵收ニ關スル事項
- 一 國稅徵收法第十一條第十二條中收入官吏ノ職務ニ關スル事項

○市町村ノ徴收スル國稅ノ件 明治二十二年三月十三日 勅令第三十三號

朕市町村長ヲシテ國稅ノ徴收ヲ爲サシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ニ掲クル國稅ハ明治二十二年三月法律第九號國稅徴收法第三條第一項ニ依リ市町村之ヲ徴收スヘシ但
菓子稅以下六項ハ隨臨收入ニ係ルモノヲ除ク(二十三年二月勅令第十
七號ヲ以テ但書追加)

- 一 所得稅
- 一 酒造稅則附則自家用料酒鑑札料
- 一 菓子稅中製造稅、製造營業稅、卸賣營業稅、小賣營業稅
- 一 煙草稅中製造營業稅、仲買營業稅、小賣營業稅
- 一 賣藥稅中營業稅
- 一 船稅
- 一 車稅
- 一 牛馬賣買免許稅
- 一 銃獵免許稅

○北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徴收ノ件 明治二十三年二月 三日法律第四號

朕北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徴收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼東京府管轄小笠原 島伊豆七島ヲ除クニハ明治二十二年三月法律第九號國稅徴收法中
第六條第七條第十條第十四條乃至第十九條ノ外他ノ條項ヲ施行セス此法律ニ據リ國稅ヲ徴收ス

第二條 北海道ニ於テハ水產稅ハ郡區長ヨリ水產物營業人組合ニ對シ其他ノ國稅ハ郡區長ヨリ戶長ニ
對シ徵稅令書ヲ發スヘシ

町村制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ嶋司ヨリ戶長ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ

第三條 水產物營業人組合ハ其組合中ニ水產稅ヲ取纏メ之ヲ金庫ニ納付スヘシ

第四條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ發
スヘシ

第五條 各納稅人ハ稅金ヲ戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ニ拂込ミ其領收證ヲ受クヘシ

第六條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ其領收シタル稅金ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得
之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第七條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ其滯納ノ
稅目金額及怠納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ

第八條 戶長ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ
水產物營業人組合ハ過誤怠慢ニ依リ其取纏メタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任ス
ヘシ

第九條 戶長又ハ水產物營業人組合ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ稅金ヲ亡失シタルトキハ北海道廳長
官若クハ縣知事ヲ經テ其責任ノ免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徴收ノ件

第十條 此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○北海道開墾地々租地方税免除ノ件 明治二十二年六月二十八日 法律第十八號

朕北海道開墾地租地方税免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄特ニ地租地方税ヲ免除ス其現ニ開墾年期中ノモノハ滞期ノ翌年ヨリ尙ホ十箇年間地租地方税ヲ課セス

○沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件

明治二十二年十二月二十八日 勅令第四百一十一號

朕沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

第一條 納税人ハ税金沖繩縣酒類出港税ヲ除クヲ金庫ニ拂込ミ金庫ヨリ交付シタル別符附領收證ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第二條 國稅品ハ納税人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其賣却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ但稅品ノ會計ハ本稅所屬ノ年度ニ依ル

○國稅滯納處分法 明治二十二年十二月二十日 法律第三十二號

朕國稅滯納處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅滯納處分法

第一章 總則

第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス

第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサル者アルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ

督促令狀ヲ發スルトキハ手数料トシテ一通ニ付金三錢ヲ徵收スヘシ

第三條 滯納者督促令狀ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ税金ヲ完納セサルトキハ其所有財產ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

第四條 滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條 滯納者財產ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テモ亦前條ニ同シ

第六條 滯納處分費滯納税金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタル財產ニ付テハ此限ニ在ラス

北海道開墾地々租地方税免除ノ件 沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件 國稅滯納處分法

第七條 酒類醬油造石税ニ付滞納處分ヲ爲ストキ其課額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滞納税金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ

第八條 滞納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手数料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ

第一 督促令狀手数料

第二 差押調書及賣却調書調製費

第三 滞納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費

第四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料

第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費

第六 公告費

第七 訴訟ニ要スル諸費

第九條 滞納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税金ヲ完納スルトキハ其財産ノ差押ヲ解クヘシ

第三者ヨリ滞納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ

第十條 滞納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス

第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滞納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管内ニ係ルトキハ收入官吏ハ其所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第二章 差押

第十二條 財産差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第十三條 財産差押ヲ爲ストキハ處分費税金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ

其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ハラズ之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得

第一 地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券

第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品

第三 第一第二ニ掲ケサル動産及一月以内ニ收獲シ得ヘキ土地ノ生産物

第四 債主權

第五 不動産

第六 質入書入ト爲シタル財産但質屋營業者ニ質入シタル動産ヲ除ク

第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其効力ヲ及ホスモノトス

第十五條 滞納處分著手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滞納者ノ財産一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滞納者所有ノ家屋倉庫其他滞納者所用ノ場所ニ現在ス

ルモノハ滞納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却決行ノ五日前マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第十八條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 滞納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

- 第二 滞納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭
- 第三 實印
- 第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地
- 第五 滞納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類
- 第六 滞納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣
- 第七 勳章其他名譽ノ章票
- 第八 修學上必要ナル教科書、器具
- 第九 發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書類
- 第十 滞納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シタル公債證書、株券手形、其他ノ證券
但所得税ニ關シテハ此限ニ在ラス
- 第十九條 左ニ掲クル物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルキヘ物件存在スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス
- 第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料
- 第二 職業ニ必要ナル器具及材料
- 第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スタメ滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルコトヲ得
滞納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏其場所ニ立入り取調ヲ爲スコトヲ得
- 收入官吏滞納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ルヘシ

- 第二十一條 收入官吏滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滞納者若クハ同居家族他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所有者若クハ同居家族ヲシテ立會ハシムヘシ
滞納者又ハ所有者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ
- 第二十二條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戶倉庫房室及筐匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得
- 第二十三條 收入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滞納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ
- 第二十四條 財産ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印シ其謄本ヲ立會人ニ交付スヘシ
- 第二十五條 通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十三條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ルヘシ
- 第二十六條 左ノ場合ニ於テハ滞納者又ハ同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得
第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ
第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ
此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ
- 第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ
負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滞納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

第二十八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條 質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件、處分費、税金額及賣却決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費税金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三章 賣却

第三十條 財産差押ノ手續ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課税地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滞納者ノ請求アルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲クル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルヘシ

第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總格一圓未満ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムル

トキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十四條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受ルコトヲ得ス

第三十五條 第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條 差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價額ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラズ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條 收獲前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押フルコトヲ得

負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ物件ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セサルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尙ホ買受人ナキカ又ハ其買受價額尙ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費税金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其謄本ヲ滯納者ニ交付スヘシ質入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其謄本ヲ交付スヘシ買受人賣却調書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札達書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ扣除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテテ債主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテテ債主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ
第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本及計算書ヲ滯納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ五日以内ニ滯納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 滯納處分ニ關シ滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ

得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ
第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示スヘシ公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ

揭示場ニ三日間揭示スルモノトス

前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ
第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五章 罰則

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第二十一條第一項ノ立會ニ應セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十一條 滯納處分ニ對シ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重

禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同シ情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之ヲ行フヘシ
第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ之ヲ施行セス

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ牴觸スル條項ハ總テ廢止ス

○國稅滯納處分法施行細則 明治二十三年一月八日 大藏省令第一號

國稅滯納處分法施行細則左ノ通定ム

國稅滯納處分法施行細則

第一條 處分法第二條ノ督促令狀同第十二條ノ差押命令書ハ第一號様式第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 處分法第十八條第一第二ニ掲クル衣服、寢具、家具、廚具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ但其例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ

第三條 財產差押ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租
- 四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

五 登記簿ニ登記アル質入書入ノ金額利子及其返濟期限、登記ノ年月日、債主ノ住所氏名又ハ質入書入ノ登記アラサルコト

六 貸與シタル不動産ニ付テハ借主ノ住所氏名、其契約ノ要項返戻期限アレハ其期限及賃金

七 差押ノ事由及手續

第四條 債主權差押ノ通知書ニハ左ノ諸件ヲ記載シ收入官吏署名捺印スヘシ

一 差押ヘタル債主權ノ種類、員額

二 差押ノ事由

三 滯納者ニ對シ義務ノ履行ヲ爲スモ無効タルヘキ旨

四 此通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ其義務ヲ認ムルカ又ハ認めサル旨ヲ申立ツヘキ旨

第五條 財產賣却ノ公告文ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 滯納者ノ住所氏名

二 動産ハ其名稱、種類、數量

三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租

四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

五 競賣若クハ入札ノ場所、日限

六 開札ノ場所日時

七 保證金ヲ徵スルトキハ其金額

八 代金納付ノ期限

- 九 條件附ノ不動産ナレハ其條件
- 十 其他隨時主任官吏ニ於テ定メタル公賣手續上ノ要件
- 第六條 競賣ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏競賣人ヲ命シテ之ヲ取扱ハシメ自カラ之ヲ監督スヘシ
- 入札ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏自カラ之ヲ取扱フヘシ
- 第七條 賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限内ニ代金ヲ完納セサルトキハ其物件ヲ交付セス更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付セス其金額ハ處分費税金ニ補充スヘシ
- 第八條 財產賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記スヘシ
 - 一 動産ハ其名稱、種類、數量
 - 二 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租
 - 三 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所
 - 四 公告及賣却ヲ爲シタル方法
 - 五 競賣ヲ爲シ又ハ入札ヲ開キタル場所、日時
 - 六 三番札マテノ入札代價並其入札人ノ住所氏名
 - 七 再公賣ヲ爲シタルトキハ其事由
 - 八 保證金ヲ徵シタルコト及其金額
 - 九 落札代價及落札人ノ住所氏名
 - 十 代金納付ノ日限
- 第九條 處分法第四十條ニ依リ賣却物件ヲ政府ニ買上ルトキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請求シ

- 之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ
- 第十條 滯納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルトキハ處分濟ノ日ヨリ十日以内ニ收入官吏ヨリ事由ヲ具シ其缺損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ
- 第十一條 處分法第十一條ニ依リ滯納處分ノ囑託ヲ受ケタル收入官吏ハ其處分ニ由リテ徵收シタル金額ノ内處分費ヲ扣除シ其殘金及諸書類ヲ囑託收入官吏ニ送付スヘシ若シ滯納者又ハ債主ニ交付スヘキ金額アリテ其者受託收入官吏ノ管轄地内ニ住スルトキハ受託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスヘシ
- 第十二條 處分法第四十三條ニ依リ殘餘金ヲ滯納者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルトキハ左ノ諸件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ
 - 一 物件賣却代金
 - 二 保證金ヲ還付セサルトキハ其金額
 - 三 處分費各費目ノ金額及税金
 - 四 債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名
 - 五 滯納者ニ還付スヘキ金額
- 第十三條 處分法第四十五條ニ依リ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルトキハ第三號様式ノ送達書ヲ添付スヘシ
- 第十四條 處分法第四十八條ニ依リ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲ爲シタルトキハ直チニ其公示ノ日時ヲ收入官吏ニ通知スヘシ
- 第十五條 督促令狀ヲ受ケタル後テ滯納者又ハ第三者ニ於テ滯納處分費及税金ヲ完納セントスルト

キハ收稅署ニ申出收入官吏ヨリ第四號様式ノ納付書ヲ受ケ之ニ現金ヲ添ヘ金庫ヘ拂込ムヘシ(廿六年令第三十五號ヲ以テ改正)

第十六條 賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號様式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

(様式略ス)

○間接國稅犯則處分法 明治二十三年九月二十日 法律第八十六號

朕間接國稅犯則處分ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則處分法

第一章 犯則事件取調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若クハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ間稅官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間稅官吏證憑集取ヲ爲スコトキハ間稅官吏タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若クハ犯則ニ係ル物件其間稅官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間稅官署ニ證憑集取ヲ囑托スルコトヲ得

第三條 間稅官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ノ求ムルコトヲ得

第四條 間稅官吏證憑集取ヲ爲スコトキハ本人若クハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若クハ鄰佑二名以上ヲ立會ハシムヘシ

第五條 間稅官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

第六條 間稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲナスニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ差押ヘテ封印若クハ認印ヲ爲シ差押目録ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若クハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徴スヘシ若シ之ヲ差押物件ヲ市町村吏員若クハ鄰佑ニ預ケ又ハ間稅署若クハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押目録ノ謄本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 間稅官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

第九條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルヲ能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

- 一 本人ノ氏名年齢身分職業住所
- 二 犯則事件發見ノ手續及日時場所

三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述
 四 差押ヘタル證據物件及種類數量并本人ノ物件ニ對スル辨解

第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄
 間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其
 犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品并
 第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキニ限り間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅
 署長之ヲ爲スモノトス

第十二條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履
 行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十三條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 間稅官吏犯則事件ヲ覺知シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラス若ハ犯則事件禁錮又ハ拘
 留ニ該ルモノト認ムルトキ又罰金若ハ税金ヲ完納スルノ資力ナキ者ト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁
 判所ニ告發スヘシ

犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ調書ヲ作り告發ノ手續ヲ爲
 スヘシ

第十五條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ

- 一 犯則者逃走ノ恐アルトキ
- 二 證憑湮滅ノ恐アルトキ

第三章 雜則

第十六條 書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬保管若ハ保存ニ要スル費用ハ犯
 則者之ヲ負擔スヘシ

第十七條 間稅署長若ハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公
 賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付スヘシ

第十八條 此法律ニ於テ間稅官吏トハ間稅國稅ノ検査若ハ徵收ニ從事スル官吏ヲ謂フ

第十九條 間稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス沒收物件又ハ差押物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島
 ニハ當分ニ之ヲ施行セス

○間稅國稅犯則者處分法施行細則 明治二十三年十一月十日
 大藏省令第三十一號

間稅國稅犯則者處分法施行細則左ノ通相定ム

間稅國稅犯則者處分法施行細則

第一條 間稅國稅犯則者ノ處分ハ其犯則發覺ノ地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ爲スヘシ但犯則ノ地ト犯則發
 覺ノ地ト其管轄官署ヲ異ニシ犯則ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯則ノ地ヲ管轄

間稅國稅犯則者處分法施行細則

スル間税署又ハ分署ニ移スヘシ

第二條 數箇ノ間税官署ノ管轄區域内ニ於テ同一ノ犯則ヲ爲シタルモノアルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル地ノ間税官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第三條 一税則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一箇ノ罪若シ間税署ノ處分權限ニ屬スルトキハ其他ノ罪モ間税署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ

第四條 間税官吏犯則事件ノ證憑集取ヲ爲スニ際シ若クハ間納署長又ハ分署長ニ於テ犯則事件ヲ調査スルニ當リ其事件ニ牽連スル他ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキハ其普通犯罪ハ管轄裁判所ニ告發シ其犯則事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用ユルモノヲ除ク外處分法ノ定ムル所ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

第五條 處分法第十一條第二項ノ合計價額ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定セサルモノハ其罰金ノ最多額ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價額ハ間税官吏ノ見積リ價額ヲ以テ之ヲ算スヘシ

第六條 間税官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實參考トナルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ間税署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第七條 間税官吏ハ犯則物件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ相當ノ者ヲシテ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ

第八條 間税官吏犯則事件ノ搜查ニ著手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證憑不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲サル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ附シ直チニ之ヲ間税分署長ニ差出スヘシ

第九條 犯則處分ニ關シ間税官吏ヨリ間税署長ニ差出ス書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ

第十條 間税署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルニ當リ事實參考ト爲ルヘキ

事物ヲ發見シタルトキハ間税官吏ヲシテ之ヲ集取セシムヘシ

第十一條 間税署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ依リ犯則事件ヲ調査スルモ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

第十二條 第十一條ニ據リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條ノ費用ハ之ヲ徵收セサルモノトス

第十三條 削除(廿六年六月大藏省令第十一號)

第十四條 處分法第十一條ノ沒收ニ該ル物品ニシテ市町村吏員又ハ隣佑若クハ本人ニ預ケタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十五條 間税署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領收シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引繼クヘシ

第十六條 處分法第十一條ノ罰金其他ノ收入金ハ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第十七條 處分法第十二條ニ掲ル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ

第十八條 間税署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯則者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領收證ハ即日之ヲ通告書ヲ發シタル間税官署ニ發送スヘシ

第十九條 間税署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄間税分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

間税署長ニ於テ各分署管轄内ニ在ル犯則者ニ通告ヲ爲ス場合モ亦同シ

第二十條 間稅署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキハ該通告書ノ謄本ヲ犯則者所在地ノ間稅分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方ヲ同署ニ移スヘシ
前項ノ場合ニ於テ犯則者期限内ニ通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ之ヲ通告書ヲ發シタル間稅官署ニ報告スヘシ

第二十一條 處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ依ルヘシ

第二十二條 凡ソ犯則處分ニ關スル書類ニハ每葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ插入削除クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シタルモノハ其字體ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ

第二十三條 間稅分署長ハ其管轄内ニ於テ處置シタル犯則事件ノ處分表ヲ調製シ毎月五日限管轄間稅署長ニ報告スヘシ

第二十四條 處分法第一條第三項ノ間稅官吏タルノ證票同第十一條ノ送達書同第十二條ノ納證施行細則第二十三條ノ犯則事件處分表ハ第一號ヨリ第四號マテノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

(様式略之)

兵事

○懲兵令

明治二十二年一月二十一日
法律第一號

朕懲兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材或能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工

及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及嶋嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火

夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役ス

ル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル嶋嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以

徵兵令

内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラズト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校小學校及振科等府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依

リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ

服役中食料被服器具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用

ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職

ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ

更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(廿二年法律第二十九

道)二十六三年三月法律第四號ヲ以テ(滿二十

加)六歳以上滿二十八歳以下全シ)

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許

サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲

メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勤務演習及簡閱點呼ヲ

爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癘疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿サル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其

事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本

條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十一條 第十一條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス其

事故滿二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集

ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在

ラス(廿二年法律第廿

九號ヲ以テ改正)學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス二十八歳迄ニ歸朝シ

又ハ二十八歳ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試験委員ノ試験ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ
法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間十二月一日豫備徵員ヨリ起算ストシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テハ其月ヨリヲ以テハ其月ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日第十一條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月ヨリ起算スヨ

リ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス(廿二年法律第二十九號ヲ以テ本條註追加)

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サル者及正當ノ事故ナクシテ身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限り三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分ニ之ヲ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備後ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得(二十六年法律第四號ヲ以テ六ヶ年ヲ八ヶ年ト改正)

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス

ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六項布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲ク

ル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十一條 第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分可シ(廿二年法律第廿九號ヲ以テ本條中改正追加)

○徵兵事務條例 明治二十二年二月二十五日 勅令第十三號

朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス
一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス
數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其島廳ヲ置クモノ亦同シ

第四條 常備歩兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄ニ大隊區ヨリ徵集スルヲ例トシ不足スルトキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス

近衛歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管内府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管内府縣徵集事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若クハ郡長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス

第十條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外旅管内府縣毎ニ旅管徵兵參事員大隊區内徵募區毎ニ大隊區徵兵參事員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク(二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ改正)

第十一條 旅管徵兵參事員及大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十條ニ當ル徵集延期及徵集免除ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス(上)

第十二條 旅管徵兵參事員ハ府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵

參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但府ニ在テハ其府名譽職參事會員ニ於テ郡市部各二名ヲ互選シ市ニ在テハ其市名譽職參事會員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム

島廳ヲ置ク島嶼ノ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村會議員中ヨリ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル(上)

第十三條 旅管徵兵參事員及大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ヌ(上) 郡市參事會員ヲ兼ヌル府縣參事會員ニシテ互選ニ當リタル者又ハ縣參事會員ニシテ郡市參事會員ヲ兼ヌル者ハ旅管徵兵參事員ニ充ツ此場合ニ於テ郡ノ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ缺員ハ郡制第四十八條ニ依リ補充員ノ内ヨリ之ヲ補充ス(上)

第十四條 毎年徵集事務及徵募準備事務執行中ハ旅管徵兵醫官及大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ヲ置ク

旅管徵兵醫官ハ旅管内徵兵身體檢查ニ係ル事ヲ總管シ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ徵兵身體ノ檢查ニ從事ス(上)

第十五條 旅管徵兵醫官ハ陸軍二等軍醫正一名ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一三三等軍醫一名ヲ以テ之ニ充ツ(上)

第十六條 毎年徵集事務及徵募準備事務執行中ハ旅管徵兵署事務員旅管徵兵署事務補助員及大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ヲ置ク

旅管徵兵署事務員ハ旅管徵兵署一般ノ事務ヲ掌理シ旅管徵兵署事務補助員及大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ該徵兵署ノ庶務ニ從事ス(上)

第十七條 旅管徵兵署事務員ハ旅團副官一名府縣兵事擔任ノ課長ヲ以テ之ニ充テ旅管徵兵署事務補助

徵兵事務條例

員ハ旅團書記一名府縣屬若干名及島廳郡市書記各一名ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ大隊區書記又ハ警備隊區書記一名島廳書記又ハ郡市書記一名若クハ二名ヲ以テ之ニ充ツ(上全)

第十八條 毎年徵兵準備事務執行中ハ地方醫師若干名ヲ以テ徵兵醫官補助員トシ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス

徵兵醫官補助員ハ徵兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身体検査ノ事ヲ補助ス(上全)

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集スヘキ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條 師團長ハ第十九條ノ勅令及第二十條ノ配賦ニ基キ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス(全勅令ヲ以テ之ヲ定ム)

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ

島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ(改正)

市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徵募準備事務執行ノトキハ各徵募區ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク土地廣闊壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵検査所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ

島司郡市長ハ検査ノ日時、徵兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身体検査ヲ行フ其検査ハ徵兵官及參事員ノ面前ニ於テスルモノトス

若シ兵役ノ適否判定シ難キ者アルトキハ他ノ徵兵署又ハ検査所ニ於テ其検査ヲ續行スルコトヲ得(全上改)

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ壯丁ノ身体検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス(正追加)

第二十八條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身体検査終ルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ徵集ヲ延期シ又ハ徵集ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徵募準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

第三十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管內府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊

區司令官又ハ警備隊區司令官ニ達ス可シ
府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ
告示ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シ現役ニ徵スヘキ壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及
兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徵兵官旅管徵兵參事員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人<sup>(廿五年四月勅令
爲スモノトス抽籤總代人ハ籤丁ノ選ヲ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス(第三十三號ヲ以
テ改</sup>正

第三十五條 旅管徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ島
司郡市長ニ交付ス可シ^(上全)

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官當籤番號ノ順序ニ從ヒ新兵徵募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徵
兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終結ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備徵員名簿徵集免
除名簿及兵役免除名簿ヲ作ル可シ^(上全)

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終結ノ處分ヲ爲シタル者(徵集免除ノ者ヲ除ク)ニハ各其證書ヲ付與ス
^(上全)

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又新兵
名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徵員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ
近衛新兵名簿ハ近衛師團長ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ
徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ^(上全)

第二十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ
作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徵募豫備徵員及編入徵集免除及兵役
免除ノ事ヲ裁決ス<sup>(廿五年四月勅令第三
十三號ヲ以テ改正)</sup>

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條ニ關スル大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁
決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁
決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス<sup>(廿五年四
月勅令第
三十三號ヲ以
テ本條中削除)</sup>

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ由リ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶
主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 新兵
第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難
キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵及輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ新兵引卒員之ヲ入營地ニ引

卒シ大隊區司令部所在ノ入營地ニ當該隊長ニ交付ス但新兵五人未滿ナルトキハ直ニ入營地ニ單行セシム

近衛新兵及海軍新兵ハ其集合地ニ引卒シ新兵受領員ニ交付スルモノトス但新兵引卒員出發後到着シ

タル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム(三十五年四月勅令第一三三號ヲ以テ改正)

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司

令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

其延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ其父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差

出ス可シ(全上改)

第五十條 新兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍戶籍上本人ノ出入モ含有ススルモ所屬ノ隊籍ヲ變更セス寄

留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ本籍ニ復歸シタルトキ亦同シ(全上改)

徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其年ノ徵募事務終結迄ハ前項ノ限ニ在ラス

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト

認タル者又ハ入營後直ニ施行スル身体検査ニ於テ永久兵役及常備後備ノ服役ニ堪ヘ難キ者アルトキ

ハ其徵募區ヨリ同兵種ノ豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ若シ其徵募區ヨリ徵集スルコト能

ハサルトキハ大隊區内他ノ徵募區ヨリ補フ其配賦ハ各徵募區豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之

ヲ定ム(全上)

第五十二條 新兵入營前廢疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免

ス

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ

徵集ヲ延期ス

其願書ニハ同徵募區内新兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長及大隊區司令官又ハ警備隊區司令

官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

島司郡市長ハ其事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可

シ(全上改)

徵兵事務條例

第五十四條 新兵入營前轉籍シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區

外ニ係ルトキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ届出可シ

寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者本籍ニ復歸シタルトキハ前項ノ例ニ依リ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(全上)

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其往先ヲ詳ニシ市町村長

ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(全上)

第八章 豫備徵員

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從フ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比

例ヲ以テ之ヲ定ム

豫備徵員ヲ徵集スルトキハ島廳若クハ郡市吏員之ヲ入營地又ハ臨時指定ノ地ニ引率シテ大隊區司令

官又ハ陸海軍派出官ニ交付スルモノトス(全勅令ヲ以テ本項追加)

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以

テ相當番號ノ上位ニ列セシム

寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者翌年一月一日以後本籍ニ復歸シタルトキ亦前項ノ例ニ依ル但徵募年ノ十二月三十一日以前本籍ニ復歸シタル者同月同日迄ニ徵集ノ命ナキトキ亦同シ(全勅令ヲ以テ本項追加)

第五十八條 豫備徵員轉籍シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ係ルトキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ届出可シ

寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者本籍ニ復歸シタルトキハ前項ノ例ニ依リ届出可シ(全勅令ヲ以テ改正追加)

第五十九條 豫備徵員寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其行先ヲ詳ニシ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ(全勅令ヲ以テ改正)

本條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九章 雜則

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ但軍隊又ハ鎮守府遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所ニ申立身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得

検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス(全)

第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書

第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ但徵兵令第二十條ニ當リ其事故三ヶ年ヲ過

クルモ仍ホ止マサル者ハ本條ノ保證書ヲ添ヘ届出可シ

其願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス(廿五年四月勅令第三十三號ヲ以テ加除)

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ三月一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ

島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書ニ證印ヲ受ク可キモノトス
島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿若クハ前年ノ假決名簿ヲ添ヘ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知ス可シ

本條ノ願出已ムヲ得サル事故ノ爲メ三月一日ヲ過クルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地島司郡市長ニ協議シ徵募上故障ナキモノニ限り許可ス可シ(全上ヲ以テ改正追加)

第六十四條 疾病傷殘或ハ犯罪等ニテ身体ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷殘ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フ可シ

島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九十五以下ノ科料ニ處ス

第六十五條 疾病傷殘或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出可シ其疾病傷殘ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フ可シ

其届書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、新兵入營ノ旅費、徵兵參事員ノ手當金旅費、地方徵兵醫官補助員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十七條 現役中疾病或ハ傷痍ニ依リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ハ師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ヌ其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

其疾病傷痍ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ國民兵ニ編入ス(廿五年勅令第三十號ヲ以テ加除)

第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シテ七ヶ年間服役セシム

其願書ニハ同徵募區内現役兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長大隊區司令官又ハ警備隊區司令官及旅團長ヲ經テ師團長又ハ鎮守府司令長官ニ差出ス可シ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

島司郡市長ハ其事實ヲ審數シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ(廿五年勅令第三十三號ヲ以テ改正追加)

第十章 附則

第六十九條 北海道廳管下面館江差福山其他島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第七十條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ同令第二十六條後段ノ例ニ準シ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第七十一條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徵集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村制ヲ實施スル迄ハ戸長ニ於テ行フ可シ

第七十三條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル

第七十四條 明治二十二年ニ限リ第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第七十五條 第十條ノ旅管徵兵參事員ハ未タ府縣制ヲ施行セサル府縣ニ在テハ府縣會常置委員ニ於テ四名ヲ互選シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル(廿五年勅令第三十三號ヲ以テ本條追加)

○徵兵事務條例施行細則 明治二十二年二月二十八日 陸軍省令第一號

徵兵事務條例施行細則左ノ通定ム

徵兵事務條例施行細則 第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

第二條 徵兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書ヲ作り壯丁名簿ニ添附ス可シ

第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵檢査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ報告ス可シ

第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵檢查所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官到着ノ上之ヲ開設ス可シ

徵兵檢查所ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官豫メ旅管徵兵官ヲ經テ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概ネ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

徵兵署ヲ甲地ヨリ乙地ニ移轉ヲ要スルトキ亦前項ノ例ニ依ル(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改正追加)

第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵檢查所巡回日割既ニ定マルトキハ島司郡市長ハ其徵募區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引續メ徵兵署又ハ徵兵檢查所ニ出頭セシム可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ島廳書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出ス可シ

第二項(二十五年四月省令第七號ヲ以テ創ラレ)

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テス可シ

第八條 身體検査ノ際現役ニ服センコトヲ志願スルモノアルトキハ大隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其景況書ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ具申ス可シ

其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ籤丁ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人名ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ屬シ第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二樣式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作

リ市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシム可シ
徵兵令第二十條ノ願ヲ許可セサル者ニハ其裁決書ヲ前項ノ例ニ依リ本人ニ付與ス可シ

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
- 二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者
- 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
- 四 工兵ハ成ル可ク兵工ノ作業ニ適當シ膂力アル者
- 五 輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者
- 六 職工ハ成ル可ク其職ニ從事セシ者

第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

- 一 水兵ハ成ル可ク帆錨舵櫓等ノ使用ニ慣レタル者(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改正)
- 二 火夫ハ成ル可ク汽機汽罐ノ取扱又ハ火焚ノ業ニ慣レタル者(同上)
- 三 職工及雜卒ハ成ル可ク各其職類似ノ業ニ慣レタル者(同上)

第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出

願中及認可ヲ受ケタル者六週間現役ニ服ス可キ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノトス(二十六年五月省令第七號ヲ以テ六週間以下ノ十一字ヲ加フ)

第十四條 大隊區ニ於テ師團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄二箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

第十五條 徵兵令第二十條ニ當リ其事故三箇年ヲ過ルモ仍ホ止マサル旨届出ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ニ審議セシメ其意見書ニ自己ノ意見ヲ付シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

第十六條 徵兵令第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ身體ノ検査ヲ行ハス

第十七條 疾病傷疾又ハ犯罪等ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者及身體検査未済ノ徵募區ヨリ轉入ノ者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ検査ニ回ス可シ但疾病傷疾ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ

第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到着ノ上之ヲ開設ス可シ

第十九條 抽籤施行ニ先タチ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ル可シ
籤ノ番號ハ甲乙兩種各合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起スヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ

第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ約レ之ヲ封鎖シ旅管徵兵官旅管徵兵參事員及大隊區官又ハ警備隊區徵兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ旅管徵兵署事務補助員籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム(二十六年五月省令第七號ヲ以テ改正)

第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ附録第四様式ニ依リ冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ(全)

第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其抽札ヲ旅管徵兵署事務補助員ニ渡シ旅管徵兵署事務補助員ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ割印ヲ押シ一人毎ニ之ヲ截チ切り總代人ニ交付ス可シ

第二十三條 甲乙兩種合格者ハ左ニ掲クル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ超過スル者ハ豫備徵員ニ編入ス

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者(二人以上ナルトキハ年齢ノ順序ノ同年齡ノ者ハ誕生日)
 - 二 甲種合格者ニシテ徵兵令第十一條第五項及第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者
 - 三 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
 - 四 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者
 - 五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者(番號順序ニ從フ第九項亦同シ)
 - 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
 - 七 乙種合格者ニシテ徵兵令第十一條第五項及第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者
 - 八 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
 - 九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者
- 第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附録第五第六様式ニ依リ新兵證書豫備徵員證書及兵役

免除證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ
徵集免除ニ屬シ國民兵役ニ服スル者ハ別ニ證書ヲ附與セス市町村長ヲシテ其由ヲ本人ニ達セシム可
シ
本則第十五條ニ當ル者ノ中徵集免除ニ屬セサル者アルトキハ其裁決書ヲ第一項ノ例ニ依リ本人ニ附
與ス可シ

第二十五條 條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徵員名簿徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ徵兵検査名簿ヲ
以テ編綴シ種類ヲ分チ冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ

第二十六條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附録第七様式ニ依リ之ヲ作ル可シ(廿六年五月省令第七號ヲ以テ改正)

第二十七條 壯丁名簿進達前市ニ在テ他ノ市町村ニ轉籍スル者アルトキハ市町村長ヨリ本人徵兵適齡屆
書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知ス可シ(上全)

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ市町村ヨリ入籍シタル
者アルトキハ町村長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ島司又ハ郡長ヲ經
テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

市ニ在テ検査名簿進達後抽籤前項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ
新兵入營前及豫備徵員ノ名簿ニ關スル異動轉入籍ハ市町村長ヨリ 監視區長ニ通知ス可シ但寄留地ニ
於テ徵集ニ應ス可キ者ノ異動ハ本籍ノ市町村長ヨリ寄留地ノ市町村長ニ通知シ寄留地市町村長本項
ノ通知ヲ爲スモノトス(二十六年五月省令第七號ヲ以テ改正)

第二十九條 壯丁名簿受領後調製後市ニ在テハ抽籤前後徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長
ヨリ壯丁名簿若クハ検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ假決若クハ終決ノ處分ヲ爲ス可シ

第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條第二十一條及第二十七條ニ當リ徵集延期徵集猶豫若クハ
入營延期翌年回中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可
シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ(二十六年五月省令第七號ヲ以テ改正)

他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又
ハ郡市長ニ通知ス可シ

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ徵集延期若クハ徵集
猶豫ト爲リタル者ハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添ヘ本籍ノ島司郡市長ニ通知ス可シ其他事故ニ依リ徵
集ニ應セサル者亦同シ

其徵集免除又ハ兵役免除ト爲リタル者ハ府縣應ヨリ其名簿ヲ添ヘ本籍ノ府縣應ニ通知ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改正)

第三十二條 徵兵令第十一條第五項及條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名
簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ差出ス可シ

市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第三十三條 新兵入營ノ期ニ先チテ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍新兵集合地ニ到ル日數
ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ

第三十四條 條例第四十八條ノ新兵引率員及近衛海軍新兵受領員ハ左ノ如シ
新兵引率員
新兵五人以上三十人迄
大隊區書記一名

新兵三十一人以上百人迄

大隊區書記一名上等兵一名若クハ二名

新兵百人以上二百人迄

大隊區副官一名下士一名上等兵一名乃至三名

但二百人以上三百人迄ハ下士二名上等兵二名乃至四名三百人以上ハ下士三名上等兵二名乃至五名トス

近衛海軍新兵受領員

下士一名

新兵二十人迄

下士一名上等兵海軍ハ一等卒以下之ニ做フ一名若クハ二名

新兵三十一人以上百人迄

新兵百人以上二百人迄

尉官一名下士一名上等兵一名乃至三名

但二百人以上三百人迄ハ下士二名上等兵二名乃至四名三百人以上ハ下士三名上等兵二名乃至五名トス

近衛海軍新兵引率員ハ新兵人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記一名トス

第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵集合地ハ左ノ如シ

第一師管ハ東京、横須賀、

第二師管ハ仙臺、白河、高田、

第三師管ハ四日市、沼津、名古屋、

第四師管ハ神戸、

第五師管ハ廣島、吳、九龜、

第六師管ハ小倉、佐世保、

第三十六條 近衛師團司令部海軍新兵入營ノ期ニ先タチ近衛及鎮守府ニ於テ新兵ノ集合地ヨリ入營地

ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ

第三十七條

條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參ノ者アルトキハ新兵引率員

大隊區司令部所在ノ入營地

ニ在テハ大ハ

ヨリ各隊長又ハ近衛海軍新兵受領員ニ其由ヲ通知ス可シ

(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改正)

第三十八條

條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱

ヲ爲ス可シ但他ノ大隊區又ハ警備隊區ニ轉籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ハ轉籍地大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ通知ヲ得テ其取扱ヲ爲ス可シ

第三十九條

新兵入營前廢疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷證

書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ旅團長ニ具申ス可シ但新兵召集地若クハ新兵交付ノ

際ニ於テ若シ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時其入營差止メ置キ本條ノ手續ヲ爲

ス可シ

新兵引率員新兵召集地若クハ新兵交付ノ際ニ於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其

診斷書ヲ添ヘ大隊區司令官ニ具申ス可シ

(上全)

第四十條

條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官

條例第五十四條ノ異動ハ轉籍地又ハ本籍地ノ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官

ヨリ各隊長又ハ近衛師團長若クハ鎮守府司令長官ニ通牒ス可シ

(上全)

第四十一條

新兵ニシテ徵集延期若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ大隊區司令官又ハ警備

隊區司令官ヨリ島司郡市長ニ送付ス可シ其徵集免除又ハ兵役免除ト爲リタル者ノ名簿ハ府縣廳ニ送

付スヘシ
前項ノ名簿中入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ島司郡市長之ヲ徵集延期名簿ニ編入スヘシ

(二十六年)

五月省令第七號ヲ以テ
本條中改正及一項追加

第四十二條 條例第五十八條ニ當ル豫備徵員ノ異動中其大隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルモノハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ其名簿ヲ轉籍地又ハ本籍地ノ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付可スシ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改正)

第四十三條 新兵豫備徵員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵證書豫備徵員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ

第四十四條 新兵證書豫備徵員證書及兵役免除證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ渡方ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

第四十五條 他ノ徵募區ニ寄留シ其地ニ於テ身體検査ヲ受ケ度キ旨願出ルモノアルトキハ島司郡市長ハ本人寄留地ノ島司郡市長ニ協議ノ上其願ヲ許可スルコトヲ得但二月一日ヲ過クルモノハ此限ニ在ラス(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改正)

第四十六條 條例第六十條ノ願書ハ附錄第八様式ニ依リ身元證書ハ附錄第九様式ニ依リ合格證書ハ附錄第十様式ニ依リ之ヲ作ル可シ(上全)

第四十七條 壯丁名簿及假決名簿中一年志願兵又ハ六週間現役兵ト爲リテ入營シタル者ノ名簿ハ大隊區徵兵官ヨリ旅管徵兵官ニ差出ス可シ(二十六年五月省令第七號ヲ以テ本條追加)
本則附錄様式ヲ左表ノ如ク改ム(略之)

○徵兵事務條例中徵募區及市長市書記市徵兵參事員ニ關スル件

明治二十二年五月八日
勅令第六十四號

朕徵兵事務條例中徵募區及市長市書記市徵兵參事員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例第三條ノ徵募區ハ東京市京都市大坂市ニ於テハ區ヲ以テ徵募區ト爲ス
徵兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大坂市ニ於テハ區長若クハ區書記ニ於テ之ヲ行フ
東京市京都市大坂市ニ於テハ市ニ大隊區徵兵參事員ヲ置カス區ニ大隊區徵兵參事員四名ヲ置キ市ノ大隊區徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム
區ノ大隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其區内ニ住スル市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉ス但其任期ハ市會議員ノ任期ニ同シ(二十五年勅令第三十四號ヲ以テ改正)

○徵發令
明治十五年八月十二日太政官布告
第四十三號

徵發令別冊ノ通制定ス
(別冊)

徵發令 第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

徵兵事務條例中徵募區及市長市書記市徵兵參事員ニ關スル件 徵發令

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ
第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 「陸軍卿海軍卿鎮臺司令官」及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區會社モ之ニ准スヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ
 - 府縣
 - 郡區
 - 町村
 - 會社
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ
- 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ
 - 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
 - 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
 - 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス
 - 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス
 - 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨

償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商法其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣芻鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
- 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
- 三 人夫
- 四 宿舍厩園及ヒ倉庫
- 五 飲水石炭
- 六 船舶
- 七 鐵道汽車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ
 - 一 但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
 - 一 造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具
 - 二 職工鑛夫洗濯人ノ類

徵發令

- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ綳帶具
 - 四 水車搗春ノ類
 - 五 病院
- 第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
- 一 皇族所用ノ車馬
 - 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
 - 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
 - 四 郵便用ノ車馬
 - 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
- 一 公務ニ屬スル麻署
 - 二 皇族ノ邸宅
 - 三 外國公使館領事館及其所屬館
 - 四 鐵道電信便郵用ノ建造物
 - 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
 - 六 博物館書籍館
 - 七 病院盲啞院棄兒院
 - 八 學校但臨戰合圍地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス
 - 九 製造場内機械室

- 第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、ハ使用其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得
- 第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス
- 第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム
- 第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ
- 第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス厩園倉庫亦同シ
- 第二十二條 宿舍厩園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス
- 第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム
- 第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ
- 第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得
- 第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際

ニ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲タルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セントキハ無効トス

一 西洋形船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲タルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

- 一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃
- 二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乗載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃
- 三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊實費及ヒ船舶ノ損料トス其
 損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス
 第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料
 トス但船橋及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス
 第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス
 第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代償若ク
 ハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
 第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限
 リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス
 第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代償若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス
 第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代償若クハ損料ヲ賠償
 ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
 第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス
 第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從テ賠償ス全ク明渡サシムルトキ
 ハ第三十九條ノ例ニ准ス
 第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一
 月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ、
 ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ

貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シ
 タルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○徵發費用怠納者處分並ニ其費用ニ關シ出訴方
明治十六年八月八日大政
 官布告第三十一號

徵發令ニ據リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年^{十一月}第七拾九號布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣
 ノ際買受人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス
 右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年^{五月}第貳拾貳號布告ニ依ル可シ

○徵發事務條例
明治十五年十二月十八日太政官布達
 第二十六號

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム
 (別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規程ヲ定ムルモノトス
 第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シ
 テ徵發書ヲ出ス可シ
 第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコ

徵發費用怠納者處分並ニ其費用ニ關シ出訴方 徵發事務條例

トヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲タル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令官長官艦隊司令官分遣艦隊長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長以上^{土官}ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖トモ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發着ノ地ニ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス(二十三年九月五日勅令第九十六號ヲ以テ追加)

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場處ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人^{其町内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同物品營業者ノ内ヨリ戶長ノ指定スルモノ}立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシムヘシ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從

ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡長ニ付スヘキモノヲ町村ニ付シ店長ニ付スヘキモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知スヘシ

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限り場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得(二十三年九月五日勅令第九十六號ヲ以テ追加)

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告スヘシ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事「縣令」ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事「縣令」ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ郡區長府知事「縣令」其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事「縣令」ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事「縣令」徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事「縣令」郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附録第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノ（船舶及ヒ船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ付スルコトアル可シ）

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一箇月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルハ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサ

ラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附録第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ（十九年十一月十一號ヲ以テ改正）

鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新タニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ（二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ追加）

第二十二條 （十九年閣令第十號ヲ以テ刪除）

第二十三條 （十九年閣令第十號ヲ以テ刪除）

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ三箇年毎ニ附録第三號二二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ（二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ改正）

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附録第四號一三三ノ雛形ニ依リ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ附録第五號一ニノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ニ送付シ管内ニ於テ新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ第五號三ニノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ送附スヘシ但海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直チ

ニ送附セシムルコトヲ得(二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ改正)

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舖農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸厩等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルヲ左ノ如シ

陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

一 麻署

一家屋

二 將官其參謀部ト共ニ

一室

三 上長官又ハ同等軍屬一名

一室

四 士官又ハ同等軍屬二名

一疊半乃至二疊

五 下士又ハ同等軍屬一名

一疊乃至一疊半

六 卒又ハ同等軍屬一名

二疊

七 徵發ニ應シタル人員三名

二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿衛主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵

發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率子左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米毎食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物

二 馬 駐軍中 朝大麥二升秣藁五百目 晝秣藁五百目 晝秣藁五百目 夕大麥 二升秣藁五百目 晝秣藁二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藁五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藁一貫目 晝秣藁五百目

目 小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藁ニ代用スルトキ 朝小麥一升 晝小麥五合 夕小麥一升五合 喰藁二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藁ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升 晝搗麥又ハ裸麥一升 喰藁一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升 喰藁一貫目

寢藁ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社寺亦同シ 食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ請負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供

スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ準ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乗載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戸長

ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ準シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乗載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明ス

ルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲

ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クル

コトヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス(二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ本條改正ス)

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲

メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區

外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ(二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ改正ス)

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ

割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事「縣令」郡區長

戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償

金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證書ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及

ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件

目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三箇月ノ期限ハ受領證書ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海

軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違

算若クハ不格式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及

ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ

半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ

届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官

憲既ニ出發セシトキハ戸長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモ

ノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付

ス可シ

戸長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作リ供給者ノ請求金額ヲ其關係ノ陸

海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラズ但變災厄難ニ罹

リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事「縣令」ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表

第七號雜形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限り陸軍省ニ差出スヘシ
第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆例ニ依ル
第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ
第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航船實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航船中現ニ消耗シタルモノ、代價ニ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス
第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタル毀損ハ總テ之賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價委員ノ住所ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス
鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ撰用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ撰舉ス可キモノトス
其撰舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其撰舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事「縣令」郡區長若クハ戶長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク
演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ
一 評價ノ事項及ヒ事由
二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リタ金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆熟タルニ依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟其損害ノ度幾分ニ止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ控除シタル歟又永存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收買ニ止マルト枝幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事「縣令」郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事「縣令」

徵發事務條例

郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

(附錄零ス)

戶籍賞恤

○戶籍法

明治四年四月四日 太政官布告第七十號

今般府藩縣一般戶籍ノ法別紙ノ通改正被仰出候條管内普ク布告致シ可申事

戶籍檢査編制ハ來申年二月一日ヨリ以後ノ事ニ候ヘ共右ニ關係スル諸般ノ事ハ今ヨリ處置致ス可ク尤モ三都府及各開港場ハ人民輻湊ノ地ニテ取締向速ニ不相立候テハ難相成ニ付送籍入籍並旅行寄留ノ者ヘ鑑札渡方寄留表取調方等當六月二十九日ヨリ後ル可カラサル事

但不審ノ廉ハ民部省ヘ可承合事

右之通被 仰出候事

人生始終ヲ詳ニスルハ切要ノ事務ニ候故ニ自今人民天然ヲ以テ終リ候者又ハ非命ニ死シ候者等埋葬ノ處ニ於テ其時々其由ヲ記錄シ名前書員數共每歲十一月中其管轄廳又ハ支配所ヘ差出サセ十二月中辨官ヘ可差出候事

五年太政官第
四號參看
第三百六十五
號ヲ以テ鑑札
廢止

五年太政官第
四號大藏省第
百四十六號ヲ
以テ改ム

右之通管内社寺ヘ可觸達候事

戶數人員ヲ詳ニシテ猥リナラサシムルハ政務ノ最モ先シ重スル所ナリ夫レ全國人民ノ保護ハ大政ノ本務ナルヲ素ヨリ云フヲ待タス然ルニ其保護スヘキ人民ヲ詳ニセス何ヲ以テ其保護スヘキヲ施スヲ得ンヤ是レ政府戶籍ヲ詳ニセサルヘカラサル儀ナリ又人民ノ各安康ヲ得テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ政府保護ノ庇蔭ニヨラサルハナシ去レハ其籍ヲ逃レ其數ニ漏ル、モノハ其保護ヲ受ケサル理ニテ自ラ國民ノ外タルニ近シ此レ人民戶籍ヲ納メサルヲ得サルノ儀ナリ中古以來各方民治趣ヲ異ニセシヨリ僅ニ東西ヲ隔ツレハ忽チ情態ヲ殊ニシ聊カ遠近アレハ即チ志行ヲ同フセス隨テ戶籍ノ法モ終ニ錯雜ノ弊ヲ免レヌ或ハ此籍ヲ逃レ或ハ彼籍ヲ欺キ去就心ニ任セ往來規ニヨラス沿襲ノ習人々自ラ度外ニ附スルニ至ル故ニ今般全國總体ノ戶籍法定メラル、ルヲ以テ普ク上下ノ通義ヲ辨ヘ宜シク粗略ノコナカルヘシ

第一則

戶籍舊習ノ錯雜アル所以ハ族屬ヲ分ツテ之ヲ編製シ地ニ就テ之ヲ收メサルヲ以テ遺漏ノ事アリト雖モ之ヲ檢査スルノ便ヲ得サルニ依レリ故ニ此度編製ノ法臣民一般華族士族卒嗣官僧侶平民迄ヲ云以下准之其住居ノ地ニ就テ之ヲ收メ專ラ遺スナキヲ旨トス故ニ各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區畫ヲ定メ每區戶長並ニ副ヲ置キ長並ニ副ヲシテ其區内戶數人員生死出入等ヲ詳ニスル事ヲ掌ラシムヘシ

第二則

戶長ハ必ス長ト副トニ限ルヘカラス時宜ニヨリ長副數名アルモ妨ケナシトス但戶長ノ務ハ是迄各處ニ於テ莊屋名主年寄觸頭ト唱ル者等ニ掌ラシムルモ又ハ別人ヲ用ユルモ妨ケ

十一年第十七
號布告ニ依リ
消滅
同上

五年太政官第
百十七號ニ依
リ消滅

戶籍法

十一年第十七號
消滅告ニ依リ

第三則
凡ソ區畫ヲ定ムル管ハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五丁モシクハ七八村ヲ組合スヘシ然レ共其小ナルモノハ數十ニ及ヒ大ナルモノハ一二ニ止ルモ都テ其時宜ト便利トニ任セ妨ケナシ
ト唱ル類モ同様タル案ヨリ云テ待ス
但急ニ區畫ヲ定メ難キ所ハ假ニ便宜ニ從ヒ一村一町ニテ檢査セシムルモ妨ナシ官ノ學校兵隊屯所等又ハ大社大寺ノ別ニ區域ヲナセシハ其官司ノ吏員其社寺ノ執事等ニテ戸長ノ事ヲ扱ハシムルモ妨ケナシ

第四則

戸長其區内ノ戸籍ヲ式ノ如ク之ヲ集メ二通ヲ清書シ更ニ第一號ト第二號ト式ノ如ク其區内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り其集ル所ノ籍ハ戸長ニ備ヘ置清書二通リト共ニ其支配所ニ差出スヘシ支配所之ヲ其廳ニ差出シ其廳之ヲ第五號第六號ノ式ノ如ク其管内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り戸籍一通ハ其廳ニ備ヘ置キ一通ニ應印ヲ押シ表ト共ニ六ヶ年目ニ改メ太政官ヘ差出スヘシ
支配所トハ管轄内廣邊ノ處別ニ一總テ出張所トイフノ類ナリ
但支配所ナキ所ハ直ニ其廳ニ出スヘシ以下準之

第五則

編製ハ爾後六ヶ年目ヲ以テ改ムヘシト雖モ其間ノ出生死去出入等ハ必其時々戸長ニ届ケ戸長之ヲ其廳ニ届ケ出テ
支配所アルモノハ支配所ニ其廳之ヲ受ケ人員ノ増減等本書ヘ加除シ 毎年十一月中戸籍表ヲ改メ

十九年内務省
令第十九號ヲ以テ
出入届出方ヲ定ム
*十年太政官
第二十號達

*六年太政官
第二百四十二號參看

同上

ナリテ製表差
出テ止ム

十二月太政官ヘ差出スヘシ
加除ハ生レノモノト入レノモノヲ除ク類ナリ

第六則

管轄應ニ於テ戸籍專任ノ吏員ヲ置キ其事ニ擔當セシムヘシ若シ遺漏粗略ノ事アルニ於テハ其吏員並ニ戸長
戸長ナキ大社ノ責タルヘシ

第七則

區内ノ順序ヲ明ニスルハ番號ヲ用ユヘシ故ニ每區ニ官私ノ差別ナク臣民一般番號ヲ定メ其住所ヲ記スニ都テ何番屋舖ト記シ編製ノ順序モ其號數ヲ以テ定ルヲ要ス
但區内ノ屋敷亡所トナリ又ハ一戸ヲ割テ二戸トシ二戸ヲ合セテ一戸トナスコアルトモ其由ヲ戸籍ニ記シ番號ハ其儘据置六ヶ年目ニ至リ改ムヘシ

第八則

各地方貫屬或ハ平民等事務アリテ全戸他ノ管轄所ニ引移ルモノハ其由ヲ本貫管轄廳ヘ願出其廳ヨリノ送リヲ取リ在留地ノ廳ニ届ケ出其所ノ籍ニ編入スヘシ又故アリテ元ノ管轄所ヘ引移ル時ハ之ヲ戻スコト其始メ出ル時ノ如クシ其所ノ籍ニ編入スヘシ
但當時全戸既ニ引移リシ官員ノ如キハ其官省ヨリ名前書ヲ在留地ノ廳ニ達シ夫ヲ證トシ其住居ノ地
區ニテ其籍ヲ收ムヘシ又本貫管轄廳ニハ其由ヲ其官省ヨリ達シ其廳之ヲ聽キ其所ノ籍ヲ除クヘシ尤
此ヨリ後引移ルモノハ此限ニアラス送籍スルコト本條ノ如クスヘシ
第八則 若シ全戸引移ルト雖モ情故アリテ本貫管轄廳ノ籍ニアラフ願フモノハ其地寄留ノ部ニ入レ情願ニ任スルモ妨ナシ

第九則

他ノ管轄地ニ引移ル時元ノ廳ヨリ送籍スルニハ其當人ヨリ元住所ノ組合並ニ戸長ニ其由ヲ届ケ長副連

戸籍法

五年太政官第
四號參看

五年太政官第
四號六年同第
百八十七號參
看

五年太政官第
四號參看

印シ其應ニ届ケ其應之ヲ受ケ其應聽知ルノ證ヲ押シ當人ニ渡スヘシ

但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ之ヲ達セシメ往來困却ノ弊ナカラシムルヲ要ス
第十則

同上

他ノ管轄所ヨリ此管轄所ニ入籍スル時ハ元ノ管轄所ノ證ヲ持參シ其入ル所ノ戸長ニ其由ヲ通シ戸長其相違ナキヲ糺シ其所ノ籍ニ入ルヘシ而シテ戸長其元應ノ證ト其入籍セシ事ノ由ヲ時々其應ニ届クヘシ

同上

管轄内甲ノ區ヨリ乙ノ區ニ移ルカ如キモ第八則ヨリ第十則迄ノ例ヲ見合スヘシ但管轄内ナルヲ以テ送籍ハ戸長ヨリ之ヲ致シ入籍ノ上其入ル所ノ戸長ヨリ其應ニ届ケ其應之ヲ聽キ即チ本書ニ加除スヘシ
第十一則

但其區ニ於テ時々加除スルハ亡論ナルヘシ

第十二則

全戸引移ラス又ハ一時公私ノ用ニテ寄留スルモノハ其本貫管轄廳ノ鑑札ヲ持參シ寄留地戸長ニ通シ其寄留スル所ノ應ニ名前書ヲ添ヘ鑑札ヲ差出シ其應之ヲ受ケ即チ其應ノ鑑札ト引替遣スヘシ
記スヘシ名住所職分ヲ變スル時ハ引替ヘシ而シテ其者歸國スル節ハ同様ノ例ヲ以テ元ノ鑑札ト引替歸國スヘシ
但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ引替シムヘシ故ニ鑑札ハ豫メ支配所ヘモ備ヘ置クヲ要ス

鑑札引替ノ節其戸長官ノ學校兵隊屯所ノ如キハ其役場大社大寺ハ執事ニ差出ス名前書ニハ官員ハ當人兵隊長證印シ自餘ハ戸

第三百六十五號ヲ以テ鑑札廢止五年太政官第四號ヲ以テ寄留地方ヲ定ム

主備主請人等證印スルヲ要ス
名前書式ハ第三號見合スヘシ

第十三則

修行又ハ奉公ノ爲メ他國ニ寄留スルモノモ第十二則ノ例タルヘシ
全戸引移リシ官員等ノ内寄留情願ノモノモ第十二則ノ例タルヘシ
但是迄修行又ハ奉公イタシ寄留スル者及ヒ事務アリテ寄留スルモノ其本貫ノ應ニ届ケ鑑札請取第十

二則ノ例ヲ以テ引替ヘシ若シ道路懸隔リ當人ヨリ本貫ノ應ニ届ケ難キ事故アル者ハ其寄留地ノ應ニ於テ戸主備主請人等ノ證書ヲ出サシメ其應ヨリ其本貫ノ應ニ掛合鑑札受取ヘシ

但自今以後ハ此例ニアラス

第十四則

凡ソ旅行スルモノ官員ハ其官省等ノ鑑札ヲ所持シ自餘ハ臣民一般其管轄廳ノ鑑札ヲ所持スヘシ
寄留ノモノハ其所持スル鑑札ヲ用ユヘシ
故ニ旅行ヲ以テ渡世トスルモノ、如キハ急速ノ便ヲ得ル爲メ豫メ其鑑札ヲ申受置モ妨ケナシトス

第十二則但書ノ通所置シ
急速ノ便ヲ得セシムヘシ

但其管轄廳ノ鑑札ニハ當人名住所ト職分ヲ記スヘシ名住所及職分ヲ變セシ時ハ右鑑札ヲ引替ヘシ

第十五則

驛遞旅宿ニ於テハ其鑑札ヲ認メ之ヲ宿帳ニ記シ止宿セシムヘシ此據證ナキモノハ止宿セシムヘカラス

戶籍法

第三百六十五號ヲ以テ鑑札廢止ニ依リ消滅

第三百六十五號ヲ以テ鑑札廢止ニ依リ消滅

第十六則

*五年正月十日大藏省達ヲ以テ驛遞掛廢止

宿帳ハ七日目毎ニ驛遞ハ其驛出張*驛遞掛ノ改ヲ受自餘ハ其戸長ヘ出シ改ヲ受クヘシ旅籠屋ニ限ラス都テ逗留三日以上ハ其戸長ニ届ケ人民輻輳スル三都府ノ如キハ其時々戸長ヨリ其驛ニ届ヘシ九十日以上ハ寄留トシ第十二則ノ手續ヲナスヘシ旅人病氣又ハ異變ノ節速ニ届ケ出ルハ勿論ナリ但戸籍改ノ節滞留スルモノハ其所持ノ鑑札ニ突合セ検査スヘシ

第十七則

八年太政官第十一號達參看

各地ニ出張スル官員出入トモ其管轄廳ヘ届ケ其出張先ノ地方廳ヘモ届クヘシ但地方ノ廳懸隔リシ場所一時出張シ或ハ急遽ノ事務等アルハ其手續ナキコアルヘシ

第十八則

七年第八號第七十四號布告ヲ以テ僧尼族籍ヲ定ム

僧侶ハ其得度ノ地ヲ以テ本貫トシ他寺ニ轉住スル時ハ送籍シ行脚遍參スルモノ寄留地ニ於テ鑑札引替ル事第十二則ノ例タルヘシ

第十九則

第三百六十五號ヲ以テ鑑札廢止

鑑札ヲ所持シテ出奔死亡シ或ハ刑ニ處セラレ歸國セサルモノハ其所ノ官司ヨリ其由ヲ本貫ノ廳ニ達シ鑑札ヲ送り還スヘシ

第二十則

六年太政官第二百四十二號目改ヲ止ム

六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改ムルニ當リテ其戸籍取集メシ上ハ日限ヲ定メ其區々ニ於テ長並副區内一戸毎ニ其差出ス處ノ戸籍ト現在ノ人員ニ突合セ相違ナキヲ點檢スルヲ以テ法トスヘシ寄留ノモノハ會テ届ケ出シ名前書ヲ以テ人員及所持ノ鑑札ニ突合セ相違ナキヲ證スルヲ以テ法トスヘシ凡テ寄留ノモノハ戸籍改ノ前第十二則第十三則ノ例ニ從ヒ鑑札ヲ受ケ名前書ヲ差出置ヘシ氏神ノ守札モ其時検査スヘシ

同上

但其土地ノモノニテ其土地ニ修行又ハ奉公シテ他家ニアルモノハ戸籍改ノ日限ニハ歸宅シテ改ヲ受クヘシモシ體ナル證據アリテ其日限ニ歸宅シ難キモノハ其證據ヲ以テ證トスルモ不得已ヘシ

第二十一則

凡ソ戸籍ヲ検査スルハ遺漏アルヘカラス又重複スヘカラスニツノ者ノ弊アレハ検査ノ要ヲ失フ尤甚シトイフヘシ故ニ戸長ヲ設ケ地ニ就テ戸籍ヲ收ムレハ遺漏ノ弊ヲ防ク所トイヘトモ其戸籍ヲ出入スルニ當リテ出入ハ他ノ管轄内ヲ出此管轄内ニ入深ク注意セサレハ又重複ノ弊ヲ免ル能ハス故ニ六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改正スルニ當リ其戸籍ヲ検査スルノ日ハ天下府藩縣一般二月一日ヨリ五月十五日ヲ以テ終ルヲ法トスヘシ此間凡百日

第二十二則

六ヶ年目毎ニ二月一日ヨリ五月十五日迄凡百日間ハ戸籍ノ出入ヲ止ムヘシ但不得已事故アルニ由リ其人ハ移轉セシメ他ノ所ニ行カシムト雖モ戸籍ノ調ハ其本住所ノ廳ニテ之ヲ取集ムヘシ此百日間ニ一般ノ戸籍調終ルヲ待テ五月十六日ヨリ送籍入籍ノ事ヲ所置スヘシ

但戸籍検査ノ日ニ當リテ二月一日ヨリ五月十日迄凡百日間 不得已移轉セシモノハ送籍入籍ノ時五月十六日ヨリハ必ス其由ト其月日トヲ本書ニ書顯スヘシ

第二十三則

六ヶ年目毎ニ五月十六日迄ニ戸籍検査既ニ終リ其廳ニ於テ六月中第四則ノ例ノ如ク其管轄内總計ノ戸籍表ヲ作りノ如ク 本書共ニ七月中太政官ヘ差出スヘシ第四則ト見合スヘシ

但一紙ハ其廳ニ留置毎年出ス所ノ表ノ基トスヘシ

第二十四則

六年太政官第二百四十二號目改ヲ止ム

戸籍法

十年太政官第
二十號達ヲ以
テ戸籍表差出
テ止ム

寄留者ノ届書ハ其寄留スル支配所ニテ、支配所ナキ、其時々之ヲ記録シ、寄留表ヲ第七號式ノ如ク製シ出入人員増減ヲ隔月検査シテ其應ニ出シ其應之ヲ受ケ毎年十二月太政官ヘ差出スヘシ、但支配所アルハ其支配所ト表ノ左傍ニ記スヘシ

第二十五則

三都府ハ人民輻輳ノ地ナルヲ以テ寄留表ハ他ノ藩縣ニ拘ラス隔月検査ノ時々即チ太政官ヘ差出スヘシ

第二十六則

民産調ノ如キハ一般ノ御報告アルヘシト雖モ此迄地方官ニテ戸籍中家産等書載サセ來リシハ其儘出スヘシ

第二十七則

戸籍表ノ用紙ハ厚紙ヲ用ヒ戸籍ノ用紙ハ美濃紙ノ寸法ヲ準トシ公用ノ野紙ヲ用ユヘシ戸長ト其應ヘ收ムル分ハ其土地求メ易キ適宜ノ品ヲ用ユヘシ故ニ毎區戸長ヘ本書分ノ公用野紙ヲ其應ヨリ下ケ渡スヘシ

第二十八則

各地ノ戸籍一例ナルヲ要スレハ字ノ細大行ノ高低ハ其記事ヲ標別スル爲ナルヲ以テ能々注意シ成丈ケ細字ニ記スルヲ要ス

第二十九則

此迄厄介ト號セシモノ或ハ縁故アリテ養育スルモノ等ハ其族屬ト續柄ヲ肩書ニシ其事由ヲ其名前ノ上ニ記スルヲ式ノ如クスヘシ

同上

七年第八號第
七十四號布告
ニ依リ消滅
第四百四十九
號ニ依リ消滅

五年太政官第
四號十年同第
二號十年同第
四年内務省乙第
四號三號達ノ
九年内務省令
第九號及第十
二號及第十三
號ニ依リ第三
號式ノ外以テ
下諸表消滅

永式ニ非ス

第三十則

華族等ノ從僕其邸内ニ住居シテ一戸ヲナセルモノハ式ノ如ク其主人ノ次ニ記シ社中寺内ニアルモノ此例ニ準スヘシ

第三十一則

凡ソ僧尼ハミナ式ニ依テ其本貫得度ノ年月及ヒ其所ヲ記シ、院内受職ノ外ハ皆弟子ヲ以テ記スヘシ

第三十二則

穢多非人等平民ト戸籍ヲ同フセサルモノ、如キハ其最寄ノ區ニテ其戸長ヘ名前書ヲ出サセ、年齢、婚嫁等ヲモ認ムヘシ其人員男女ヲ分チ戸籍表ニ書入レ差出シ應ニテモ戸籍表ニ入ル、式ノ如クスヘシ但生死出入其最寄戸長ニテ取扱寄留旅行ノ規則等平民同様ノ例ニ從ヒ名前書ヲ六ケ年目ニ出サシムル、戸籍ノ如クスヘシ

第三十三則

都テ書式ハ臣民トモ体裁一ナレハ彼此相通シ參用シテ妨ナシ
(表式略ス)

○戸籍法中心得方及改正

明治五年正月十三日
大政官布告第四號

戸籍法中心得方區々相成候箇條並改正ノ廉左ノ通ニ候條本書ニ照準シ取捨可致事

戸籍編制ノ事

戸籍ノ編制ハ來申年正月晦日現在ノ人員ヲ根據トシ同二月一日ヨリ凡ソ百日ノ間ハ右人員検査ノ日限

戸籍法中心得方及改正

十年第廿號達
 壬申四月九日
 第百十七號布
 告ニ依リ消ス
 六號第百三十
 五號第百八十
 七號第百七十
 八號第百七十
 一號第百七十
 布告ニ依リ
 改正
 限族當主ハ此
 限ニテ分テ
 但書ノ分テ
 第二號第百十
 依リ中止
 十年第廿號達
 永式ニ依リ中
 壬申正月二十
 五號第百九十
 三號第百九十
 七號第百九十
 七號第百九十
 日大藏省第百
 五十四號達ニ
 依リ改正
 十年第廿號達
 達ニ依リ中止

ナレハ右日限中ノ増減ハ翌年正月ノ取調ニ因テ改ムヘキ事

死者屆方期限ノ事 死者埋葬所ニ於テ記録届方ノ義毎年十二月中迄ノ分翌年二月中ニ大藏省可差出事

戸長副給料ノ事 戸長副給料並入費ハ凡テ下方ヨリ取立相當支給可致事

番號ノ事 番號ハ地所ニ就テ之ヲ數フ然レモ戸數點檢ノ爲メ戸毎ニ番號ヲ貼スルハ地方ノ便宜ニ任ス可キ事

送籍證ノ事 凡送籍スル者華士族卒僧尼舊神官ハ戸長へ申立管轄廳ノ證ヲ受ケ平民ハ戸長副連印ノ證ヲ可與事

但平民ノ出入臣民ノ出產死去等前月分取集メ翌月戸長副ヨリ其應ヘ可相屆事

囚獄人及ヒ徒流人等其管轄内戸籍アル者ハ戸籍表へ載セ他管内ノ者ハ寄留表中へ書載ス可キ事

總計表並屆期限ノ事 戸籍及ヒ職分寄留總計並表共別紙雛形ノ通改正相成候事

但來申年ハ戸籍共七月中届出爾後ハ一ケ年分翌正月中取調二月ニ至可届出事

寄留者ノ事

凡寄留スル者ノ届書ハ官員神官華士族卒僧尼舊神官ハ當人兵隊ハ隊長平民ハ戸主傭主請人ノ内ニテ證
 印シ且寄留ノ地ニ於テ一戸ヲナセシ者ハ其管下ノ者同様届書へ屋敷番號ヲ記シ其區戸長へ届ケシムヘ
 シ戸長ハ總体ノ届書ヲ集メ式ノ如ク寄留總計ヲ作リ其應へ出シ其應之ヲ受ケ寄留表へ書載ス可キ事

○出生死去出入及寄留者届出方改定

明治十九年九月二十八日
 内務省令第十九號

明治四年四月四日布告戸籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年正月第四號布告第八項寄留者届

出方左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

第一條 出產アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第二條 死者アリタルトキハ埋葬以前ニ届出ヘシ

第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第四條 廢戶主廢嫡改名復姓身變分換其他願濟ノ上戸籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領シ

タル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戸主ヨリ届出ヘシ戸主未定又ハ不在ナルトキハ親族二人以上又

ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戸長ニ届出ヘシ但本籍地外ニアルトキハ現在地戸長ニ届出且同時

ニ本籍地戸長へ届書ヲ發送スヘシ

第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ

自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以

内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長へ届書ヲ發送スヘシ

第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所

其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

出生死去出入及寄留者届出方改正

第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○戶籍取扱手續 明治十九年十月十六日 內務省令第二十二號

戶籍取扱手續左ノ通相定ム

戶籍

第一條 戶籍ハ戶籍用紙ヲ以テ之ヲ造リ各戶ヲ別葉ニ登記シ一町村毎ニ帳簿ニ編製スヘシ且便宜ニ因リ一町村ヲ數冊ニ分綴シ又ハ數町村ヲ一冊ニ合綴スルコトヲ得

第二條 戶籍簿ハ副本ヲ造リ郡役所ニ納メ置クヘシ區長ニ於テ戶籍ヲ取扱フトキハ之ヲ管轄廳ニ納メ置クヘシ

第三條 若シ登記ノ事項多クシテ欄内ニ餘白ナキトキハ用紙ヲ以テ其欄上ニ掛紙シ之ニ登記スヘシ但本紙ト掛紙トノ綴目ニハ官印ヲ捺スヘシ

第四條 戶籍ハ字畫ヲ明瞭ニ記載シ濫ニ添削スルコトヲ得ス若シ錯誤脫漏ニ依リ添削スルトキハ之ニ印認ヲ捺シ且其刪ルヘキモノハ朱線ヲ畫シ原文ヲ存スヘシ

第五條 戶籍簿ノ改製ヲ要スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲ爲スヘシ

第六條 戶籍簿燒亡紛失シタルトキハ郡役所又ハ管轄廳ニ納メ置キタル副本ニ據リ編製スヘシ

第七條 戶籍簿ノ改製又ハ編製ヲ爲シタルトキハ郡長又ハ管轄廳ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ但改製ニ係ル原戶籍簿ハ少クモ五十年間之ヲ保存スヘシ

登記

第八條 戶籍ニ關スル届書ヲ受領シタルトキハ先ツ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日並届出ノ年月日届出期限ナキモノハ其届出ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ但本籍地外ニ在ル者ニ係ル事項ニシテ届出期限アル者ハ届書發送及受領ノ年月日ヲモ之ニ記入スヘシ

- 第九條 登記目録ハ左ノ三種ニ分チ毎年一種毎ニ之ヲ編製ヘスシ但一種中ニ部門ヲ設ケ之ヲ分綴スルモ妨ケナシ
- 一 加籍目録
- 一 除籍目録
- 一 異動目録

第十條 第八條ノ手續ヲ了リタルトキハ直ニ戶籍ニ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日届出期限ナキモノハ届出ノ年月日ヲ登記シ届書ニハ受領ノ年月日及登記済ノ旨ヲ記入スヘシ

第十一條 戶籍ニ入ル者アルトキハ其戶籍ノ末ニ登記スヘシ戶籍ヲ除ク者アルトキハ其事項ヲ朱ニテ登記シ且其氏名朱線ヲ畫スヘシ

第十二條 全戶入籍スル者アルトキハ直ニ戶籍簿ニ編入スヘシ

第十三條 全戶除籍スル者アルトキハ朱ニテ登記シ其戶籍ニ朱線ヲ畫シ便宜之ヲ除籍簿ニ移スヘシ

第十四條 戶主ニ代替アルトキ家族ハ總テ新戶主ノ續柄ヲ以テ戶籍ヲ改寫スヘシ但舊紙ハ官印ヲ以テ新紙ト割印シタル上除籍簿ニ移シ綴ツヘシ

第十五條 戶籍ニ登記シ諸届ニ記入シタルトキハ總テ之ニ認印ヲ捺スヘシ又諸届ハ一箇月分ヲ類集分綴シ翌月中ニ郡役所區役所ニ送付スヘシ但郡役所又ハ管轄廳ニ於テハ戶籍簿ヲ改製スル時マテ之ヲ保存スヘシ

戶籍取扱手續

送籍入籍

第十六條 送籍ヲ請求スル者アルトキハ戶籍用紙ヲ以テ送籍狀ヲ作り直ニ入籍地ノ戶長區長ハへ發送シ且其送籍ノ事項及發送ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ

第十七條 人別ノ送籍狀ニハ其人別ニ關シ戶籍ニ登記シタル事項及戶主ノ氏名身分住所ヲ記載スヘシ

第十八條 全戶ノ送籍狀ニハ戶籍ニ登記シタル事項ヲ漏遺ナク記載スヘシ

第十九條 入籍ヲ届出ルトキハ原籍地戶長區長ハヨリ送達シタル送籍狀ト照查シ入籍ノ手續ヲ爲シ五日以内ニ入籍報知書ヲ原籍地戶長へ發送スヘシ原籍地戶長ニ於テ之ヲ受領シタルトキハ其受領ノ年月日ヲ登記目録送籍狀ノ發送年月日ノ下ニ記入シ直チニ右入籍ノ日ヲ以テ除籍スヘシ

寄留

第二十條 他府縣又ハ他郡區ヨリ寄留シタルノ届出アルトキハ入寄留簿ニ登記スヘシ其登記ハ總テ戶籍ノ例ニ依ル

第二十一條 入寄留簿ハ左ノ二種ニ分チ一種毎ニ之ヲ編製シ且一種中ニ一世帯ヲ爲ス者ト然ラサル者トヲ區別編製スヘシ但一世帯ヲ爲サ、ル者ハ一帳簿ニ列記スルモ妨ケナシ

- 一 他府縣人入寄留簿
- 一 他郡區人入寄留簿

第二十二條 寄留地ヲ去リタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其入寄留人名ニ朱線ヲ畫シ其別葉ヲ爲スモノハ便宜之ヲ除帳簿ニ移スヘシ

第二十三條 他府縣又ハ他郡區へ寄留シタルノ届書到達シタルトキハ出寄留簿ニ列記スヘシ

第二十四條 出寄留者復歸シタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其人名ニ朱線ヲ畫スヘシ
(戶籍用紙雜形略ス)

○私生子ニ關スル件

明治六年一月十八日
太政官布告第二十一號
妻妾ニ非サル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受タルヘキ事
但男子ヨリ已レノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戶長ニ請テ免許ヲ得候者ハ其子其男子ヲ父トスルヲ
可得事

○内外人婚姻ニ關スル件

明治六年三月十四日
太政官布告第百三號
自今外國人民ト婚姻差許左ノ通條規相定候條此旨可相心得事

- 一 日本人外國人ト婚嫁セントスル者ハ日本政府ノ允許ヲ受クヘシ
- 一 外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若シ故有ツテ再ヒ日本人タルノ分限ニ復センコトヲ願フ者ハ免許ヲ得能可シ
- 一 日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本ノ國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
- 一 外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ屬シタル者ト雖モ日本ノ不動産ヲ所有スルコトヲ許サス但シ日本ノ國法並日本政府ニテ定タル規則ニ違背スルコトナクハ金銀動産ヲ特携スルハ妨ケナシトス
- 一 日本ノ女外國人ヲ婿養子ト爲ス者モ亦日本政府ノ允許ヲ受クヘシ

私生子ニ關スル件 内外人婚姻ニ關スル件

- 一 外國人日本人ノ婿養子トナリタル者ハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
- 一 外國ニ於テ日本人外國人ト婚嫁セントスル者ハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本公使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ公使及ヒ領事官ハ裁下ノ上本國政府ヘ届出ヘシ

○婚姻養子女若クハ離縁等戶籍ニ登記セサル内ハ其効ナキモノトス

明治八年十二月九日
太政官達第二百九號

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離縁縁令相對熟談ノ上タリテ雙方ノ戶籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做スヘク候條右等ノ届方等閑ノ所業之無様精々説諭可致置此旨相達候事

○褒章條例
明治十四年十二月七日太政官布告
第六十三號

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別紙)

褒章條例

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達

ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ヲ勤勉シ勞效顯著ナル者ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス(二十七年勅令第百一號ヲ以テ改正)

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セス

(褒章ノ圖及佩用式略ス)

○褒章條例取扱手續 明治二十七年一月六日 閣令第一號

明治十四年第三百三號達褒章條例取扱手續左ノ通改正ス
褒章條例取扱手續

第一條 褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ

但官吏職務上ノ勞效ニ對シテハ褒章ヲ賜フノ限ニアラス
第二條 賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆燬シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條 外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其ノ公私備ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

第四條 褒狀ハ高等官及高等官待遇ノ者竝ニ從六位以上及勳六等以上ノ者竝ニ華族ノ戶主其ノ祖父母父母妻嫡長子孫及嫡長子孫ノ妻ニハ賞勳局總裁之ヲ授與スヘシ其ノ具申申牒施行ノ順序ハ第一條及第二條ニ同シ

其ノ他ノ者ハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事之ヲ授與スヘシ

第五條 褒狀ヲ外國人ニ授與スヘキトキハ金銀木杯金圓賜與手續第六條ニ依ル

第六條 褒章ヲ有スル者重罪ノ刑ヲ受ケタルトキハ裁判確定ノ後司法大臣又ハ陸海軍大臣宣告書寫ヲ添ヘ之ヲ賞勳局總裁ニ還付スヘシ

第七條 褒章褒狀ヲ賜フヘキ者具申後授與以前ニ於テ輕罪以上ノ罪ヲ犯シ又ハ死亡シタルトキハ警視

總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ速ニ其ノ事由ヲ主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

○褒章ト金銀木盃金圓賜與手續 明治十六年一月四日 太政官布告第一號

明治十四年^{十二月}第六拾三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者又ハ公益ノ爲メニ金穀財産等ヲ寄付シタル者ハ金銀木杯若クハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ賜フコトアルヘシ

○金銀木盃金圓賜與手續 明治十六年三月二十六日 太政官達第十七號

金銀木杯金圓賜與手續 第一條 褒章ヲ賜フヘキ者ニ金銀木杯又ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

定例

第一等 木杯三組^{品格ナニ}又ハ金拾圓ヨリ多カラス六圓ヨリ少カラス

第二等 木杯三組^{品格ナニ}又ハ金五圓ヨリ多カラス貳圓五拾錢ヨリ少カラス

第三等 木杯壹個^{品格ナニ}又ハ金貳圓ヨリ多カラス壹圓ヨリ少カラス

但賜杯賜金ニ及ハサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

特例

第一等 金杯壹個又ハ三組又ハ金圓

褒章條例取扱手續 褒章ト金銀木盃金圓賜與手續 金銀木盃金圓賜與手續

第二等 銀杯壹個又ハ三組又ハ金圓

第二條 公益ノ爲メニ金穀財産等ヲ寄付シケル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

寄附金額又ハ價格

拾圓未滿

褒狀

但壹圓未滿ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換フルコトアルヘシ(十七年二月第二十二號達ヲ以テ但書追加)

拾圓以上百圓未滿

木杯壹個

但五拾圓未滿ハ拾圓毎ニ五拾圓以上ハ貳拾五圓毎ニ價格ニ等差アリ

百圓以上五百圓未滿

木杯三組

但三百圓未滿ハ五拾圓毎ニ三百圓以上ハ百圓毎ニ價格ニ等差アリ

五百圓以上貳千圓未滿

銀杯壹個

但千圓未滿ハ貳百五拾圓毎ニ千圓以上ハ五百圓毎ニ價格ニ等差アリ

貳千圓以上五千圓未滿

銀杯三組

但千圓毎ニ價格ニ等差アリ

五千圓以上壹萬圓未滿

金杯壹個

但貳千五百圓毎ニ價格ニ等差アリ

壹萬圓以上

金杯三組

第三條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フ事項ハ賞勳局總裁之ヲ管理スルモノトス

褒狀又ハ木杯又ハ定例金圓ノミヲ賜フハ警視總監府知事「縣令」管理施行スルモノトス

但勅奏任官奏任官以上ノ待遇ヲ受クル者從并六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主其祖父

母父母妻嫡長子孫及其妻ニ賜フヘキトキハ第四條ニ準據スヘシ(二十四年二月閣令第一號ヲ以テ但書追加)

第四條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フヘキ者アルトキハ警視總監府知事「縣令」ヨリ「內務卿」又ハ「農商務卿」ニ具申シ「內務卿」又ハ「農商務卿」ハ之ヲ審査シ賞勳局總裁ニ

申牒スヘシ

賞勳局總裁ハ其中牒ニ據テ勅奏任官奏任官以上ノ待遇ヲ受クル者并從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者

及華族ノ戶主其祖父父母妻嫡長子孫及其妻ニハ之ヲ直授シ其他ノ者ハ「內務卿」又ハ「農商務卿」ヲ

經由シ警視總監府知事「縣令」ヲシテ之ヲ傳達セシム

第五條 金銀木杯又ハ金圓又ハ褒狀ヲ受クヘキ者ニシテ其未タ授與セサル前重罪ノ刑ニ處セラレタル

トキハ之ヲ授與セス

第六條 外國人ニ金銀木杯金圓又ハ褒狀褒詞ヲ賜フヘキ者アルトキハ總テ內國人ノ例ニ準スト雖モ公

使館員及帝室ノ貴賓ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ニ申牒シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シ

テ之ヲ傳達セシムヘシ(二十四年二月閣令第一號ヲ以テ但書追加)

○恤救規則

明治七年十二月八日 太政官達第百六十二號

濟貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニ因テ其方法ヲ設ヘキ筈ニ候得共目下難差置無告ノ窮民ハ自今各地ノ遠近ニヨリ五十日以内ノ分左ノ規則ニ照シ取計置委曲內務省ヘ伺出此旨相達候事

金銀木盃金圓賜與手續 恤救規則

恤救規則

一 極貧ノ者獨身ニテ廢疾ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米壹石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ
但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身廢疾ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ七十一年以上ノ者重病或ハ老衰シテ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米壹石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身重病或ハ老衰シテ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ疾病ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一日米男^{ハ三合}女^{ハ二合}ノ割合ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身病ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ十三年以下ノ者ニハ一ケ年米七斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ
一 救助米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以テ石代下ケ渡スヘキ事

○窮民恤救申請調査箇條

明治八年七月三日
内務省達乙第八十五號

窮民恤救之義ニ付テハ昨七年第六十二號ヲ以御達ノ趣モ有之候處爾後右等ノ者共救助筋申請ノ砌ハ箇條ニ照シ篤ト調査ノ上可伺出此旨心得トシテ相達候事

第一條

一 恤救規則ニヨル可キモノハ獨身老幼廢疾疾病等ニテ何等ノ業モ爲ス不能事實赤貧ニシテ曾テ他ニ保育スル者モ無之全ク無告ノ窮民而已ニ限ルヘシ然ルニ唯年齡廢疾等ノ名義ニヨリ救助伺出ル等ノ儀コレアリテハ恤救規則ノ趣旨ニモ乖戾可致ニ付假令七十一年以上又ハ廢疾ノ者タリモ其業ニヨリテハ生産ノ道可相立者ナシトセサレハ篤ト現場ノ實況ヲ査定シ眞ニ不得止者而已具狀イタスヘシ

第二條

一同上ニヨリ是迄其市村内或ハ鄰保ノ情誼ヨリ互ニ協救仕來ル如キハ別段官ノ給與ヲ不乞ヲ以テ本旨トスヘシ

第三條

一同上ニヨリ互ニ協救スルト雖モ若シ其手當不足ニシテ其内幾分ヲ官ヨリ不仰ハ補助スル不能等ノ如キハ其幾分給助之次第及ヒ石數金員ニ至ル迄詳悉記載申出スヘシ

第四條

一同上ニヨリ十三年以上七十年以下ノ者疾病中救助米賜ルト雖モ全快ノ期ヲ篤ト調査シ在再支給等無之様注意イタスヘシ

第五條

一同上ニヨリ疾病或ハ病者トノミ記載申請ノ向モ有之候得共爾後左ノ雛形ニ準シ詳悉記載別紙ニ製シ具申イタスヘシ
但規則脇書ニコレアル餘ノ家人アラハ本文雛形ニ記載スル本人名前ノ左傍ニ委詳書記スヘシ

第六條

一同上ニヨリ五十日以内給與シ申請ノ節何月幾日ヨリ何日分ト記載伺出ヘシ

第七條

一同上ニヨリ同濟ミノ上其石割ヲ以給與セシムルハ勿論ナレト譬ハ一ケ年壹石八斗ヲ目途ニ立其以内ヲ以テ足レリトスルカ如キハ其數量實地至當ニ斟酌シ適宜ノ所分ハ不苦候間其旨精細具狀イタスヘシ

第八條

一老幼廢疾疾病等ニテ獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下タレハ本人ノミヘ獨身ニ準シ給與スヘキ成規ノ處若シ餘ノ家人廢疾疾病老幼ニテ事實難捨置情故アラハ其者共ヘモ救助セシムルコトモアルヘキニ付其旨趣ヲ以具狀スヘシ併シ右様ノ場合ニオイテ一家數人ノ救助ニ及フトキハ各自給與ヲ致サストモ其適度ニ斟酌シ可成丈減省ヲ見込ミ伺出ツ可シ
(書式畧ス)

○棄兒養育米給與方

明治四年六月二十日
太政官布告第三百號

從來棄兒教育ノ儀所預リノ分ハ養育米被下貰受人有之分ハ不被下候處自今預リ貰受ニ不拘棄兒當歳ヨリ十五歲迄年々米七斗ツ、被下候間實意養育可致事

○棄兒養育米及生年月日檢定方

明治六年四月二十五日
太政官布告第三百三十八號

棄兒養育米ノ儀辛未六月中相違候通十五歲迄年々米七斗宛下渡候處自今滿十三年ヲ限リ被下候條生年月日見定ノ儀ハ其所戸長等立合身體骨格等篤ト檢査シ本年第三十六號布告ニ照シ年齡相定候様可致事
但(六年第三百四十號
布告ヲ以テ刪除)

○三子養育料ノ件

明治六年三月三日
太政官布告第七十九號

三子出産ノ者其家困窮ニテ孳養行届兼候向ハ以來養育料トシテ一時金五圓給與致シ候間地方官ニ於テ速ニ施行致シ追テ請取方大藏省ヘ可申出候事

○恤救米棄兒養育米等支給方

明治八年四月二十九日
大藏省達乙第六十三號

昨七年十二月中第百六十二號公布恤救米及棄兒養育米等都テ石代金下渡方ノ儀各應ニ於テ本人共ヘハ三ヶ月分ヲ取束ネ其初月ニ后チノ兩月ヲ括シ渡方可取計且疾病等ニテ日常給米ノ分ハ凡一ヶ月分ヲ其月初メニ繰上ケ相渡候儀ハ不苦候條概費ヲ以支給シ最本年七月ヨリハ額外常費ヲ以可仕拂此旨相違候事

但本文三ヶ月分取束相渡候節ハ總テ渡前月ノ下米相場ヲ以石代給與可致候且本人病死等ノ節ハ渡過相成候分返納ニ不及候事

○恤救米及棄兒養育米石代相場立方

明治九年三月二十四日
大藏省達乙第三十二號
昨八年四月中大藏省乙第六拾三號ヲ以恤救米及ヒ棄兒養育米等渡前月ノ平均相場ヲ以石代給與ノ旨相達置候處地方ノ都合ニ寄實際交付ノ節迄ニ前月相場調成難相成事實差問候向ハ渡前前月ノ下米平均相場相用不苦候條豫テ大藏省へ届濟可致施行此旨相達候事

○行旅死亡人及行旅病人携帶兒救助ノ件

明治十九年五月十一日
内務省訓令第二五一號
行旅死亡人及行旅病人ノ携帶セル幼年者等救助ノ費用ハ本人又ハ家元ヨリ辨償セシムヘシト雖モ赤貧ニシテ辨償シ能ハサルトキハ恤救規則ニ依リ給與シ若シ増費ヲ要スルカ又ハ該規則ニ適當セサルモノハ本籍地方稅教育費ヲ以テ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

○迷兒取扱ノ件

明治二十二年二月二十一日
内務省訓令第五號
迷兒ハ棄兒ニ準シテ取扱ヒ家元發見シ若シ其費用辨償ノ資力ナキトキハ養育費ヨリ支辨スヘシ但本文ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ取消ス

學事

○地方學事通則

明治二十三年十月二日
法律第八十九號
朕地方學事通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方學事通則

- 第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク
- 町村學校組合ニハ町村制第十七條ヲ適用ス
- 第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫ス
- 前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第一百三條町村制第一百四條ノ規程ヲ適用ス
- 一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ
- 市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行ス
- 第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得
- 第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ兒

恤救米及棄兒養育米石代相場立方 行旅死亡人及行旅 病人携帶兒救助ノ件 迷兒取扱ノ件 地方學事通則

童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

第五條 町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條 市町村立學校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第二十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 府縣郡市町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得

學校基本財産ハ單ニ某學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得
學校基本財産ノ廢設並支消費却交換讓渡質入書入ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
學校基本財産ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 府縣郡市町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財産トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財産トナスコトヲ得
府縣郡ハ歳出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財産トナシ又ハ特ニ歳入ノ幾分ヲ増加シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十一條 從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財産ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ク之ヲ區分シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十二條 府縣制郡制市制町村制ニ規定シタル內務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キテハ內務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條 本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

○諸學校通則 明治十九年四月九日 勅令第十六號

朕諸學校通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

諸學校通則

第一條 師範學校ヲ除クノ外各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設置維持スルニ足ルヘキ金額ヲ寄附シ其管理ヲ

文部大臣又ハ府知事「縣令」ニ願出ルモノアルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣立ト同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得但寄附人ノ望ニ依リ其名稱ヲ附スルコトヲ得

第二條 寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ用途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第三條 學校幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ヘク其區町村立ニ係ルモノハ府知事「縣令」ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更ハ府知事「縣令」ノ認可ヲ經ヘク廢止ハ府知事「縣令」ニ上申スヘシ

第四條 凡教員ハ文部大臣若クハ府知事「縣令」ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ

第五條 公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシ

● 小學校令

明治二十三年十月六日 勅令第二百十五號

朕小學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小學校令

第一章 小學校ノ本旨及種類

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

市町村若クハ町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ一人若クハ數

人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス 徒弟學校及實業補習學校モ亦小學校ノ種類トス

第二章 小學教ノ編制

第三條 尋常小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術體操トス

土地ノ情況ニ依リ體操ヲ缺クコトヲ得又日本地理日本歴史圖書唱歌手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第四條 高等小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術日本地理日本歴史外國地理理科圖書唱歌體操トス女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルモノトス

土地ノ情況ニ依リ外國地理唱歌ノ一科目若クハ二科目ヲ缺クコトヲ得又幾何ノ初步外國語農業商業手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第五條 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科ト一校ニ併セ置クコトヲ得

第六條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ農科商科工科ノ一科若クハ數科ノ專修科ヲ置クコトヲ得其專修科ハ正教科ニ併セ置キ又ハ之ニ代フルモノトス

第七條 尋常小學校又ハ高等小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第八條 尋常小學校ノ修業年限ハ三箇年又ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年三箇年又ハ四箇年トス

第九條 專修科補習科徒弟學校及實業補習學校ノ教科目及修業年限ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 小學校ノ某教科目ハ文部大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ之ヲ隨意科目トナシ又ハ之ヲ學習シ能ハサル兒童ニ課セサルコトヲ得

第十一條 第三條又ハ第四條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除スルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置キ又ハ其併置ヲ止ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條第七條又ハ第八條ニ依リ正教科專修科若クハ補習科ヲ設置廢止シ又ハ修業年限ヲ定ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 小學校ノ教則ノ大綱ハ文部大臣之ヲ定ム

府縣知事ハ小學校教則ノ大綱ニ基キ其府縣ノ小學校教則ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 小學校ノ單級多級ノ制男女ヲ區別シ教授スヘキ場合多級ノ學校ニ學校長ヲ置クヘキ場合一教員ノ教授シ得ヘキ兒童ノ數等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十四條 小學校ノ休業ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超エサルモノトス但徒弟學校實業補習學校補習科等ニ就キテハ此限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ニ依ラサルコトヲ得

傳染病ノ流行其他非常變災アルトキハ市内ニ在ル小學校ニ就キテハ府縣知事町村內ニ在ル小學校ニ就キテハ郡長ニ於テ一時之ヲ閉サシムヘシ其急迫ナル場合ニ於テハ市町村ニ於テモ亦之ヲ閉ツルコトヲ得

第十五條 小學校ノ每週教授時間ノ制限及祝日大祭日ノ儀式等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十六條 小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審查委員ニ於テ審査シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシ

審查委員ハ府縣ニ置キ府縣官吏府縣參事會員尋常師範學校長教員及小學校教員ヲ以テ之ヲ組織ス

審查員及審査ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 小學校ニ於テハ校舍校地校具體操場ヲ備ヘ又農科ヲ設クル小學校ニ於テハ農業練習場ヲ備フヘキモノトス

特別ノ事情アルトキハ體操場農業練習場ヲ備ヘサルコトヲ得此場合ニ於テハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府

縣知事町村內ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 校舍校地校具體操場農業練習場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的ニ關セサル事件ノ爲使用スルコトヲ得ス若シ特別ノ事情アリテ之ヲ使用セントスルトキハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府

縣知事町村ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 校舍校地校具體操場農業練習場ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣定ムル所ノ準則ニ基キ府縣知事ニ於テ土地ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第三章 就學

第二十條 兒童滿六歲ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲシテ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル間ハ就學セシムルノ義務アルモノトス

前項ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ達シタル年ノ學年ノ始メヨリ生スルモノトス
學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件ハ文部大臣之ヲ規定ス

第二十一條 貧窮ノ爲又ハ兒童ノ疾病ノ爲其他已ムヲ得サル事故ノ爲學齡兒童ヲ就學セシムルコト能
ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長ニ申立ツヘシ

市町村長ハ前項ノ申立ニ依リ必要ナリト認ムルトキ又ハ前項ノ申立ナキモ猶必要ナリト認ムルトキ
ハ學齡兒童若クハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ就キテ検査ヲ行フコトヲ得

市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ検査ニ依リ就學ヲ猶豫シ又ハ免除スルトキハ監督官廳ノ
許可ヲ受クヘシ

第二十二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲ市町村立小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ
出席セシムヘシ若シ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其市町村長ノ
許可ヲ受クヘシ

第二十三條 傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル兒童又ハ一家中ニ傳染病者アル兒童又ハ不良ノ行爲
アル兒童又ハ課業ニ堪ヘサル兒童等ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

前項ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十四條 學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘ
シ

第四章 小學校ノ設置

第二十五條 各市町村ニ於テ其市町村内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置ス

町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ本令ニ關シテハ之ヲ一町村ト

同視ス

第二十六條 市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ
町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長其町村ノ意ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ許可
ヲ受クヘシ

第二十七條 郡長ハ一町村ノ資力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル場合
ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置
スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ

第二十八條 郡長ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認定スル
場合又ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルモ道路ノ遠隔若クハ困
難ナルカ爲適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認定
スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘ
キ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ

二 其町村ヲシテ其町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學
校組合若クハ其區ニ委託セシムヘシ

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲其兒童ヲシテ其町村ノ
尋常小學校ニ通學セシムルコト能ハサル事情アリト認定スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルヘシ
郡長ハ町村學校組合ニシテ前項ノ事情アリト認定スル場合ニ於テハ本條第一項第二ノ例ニ依ルヘシ

第二十九條 郡長ハ第二十七條及第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲ設ケシムルトキハ關係町村及郡參

事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムルトキモ亦同シ

郡長ハ第二十八條ニ依リ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ關係町村町村學校組合及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキ其他必要ノ事情アルトキハ町村内若クハ町村學校組合内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔若クハ兒童教育事務委託ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

一 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ

二 町村内若クハ其一部内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所數箇所アルトキ

三 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ト其一部内ノ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所トアルトキ

本條第一項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ
本條第二項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 郡長ハ第二十八條第一項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條第二項若クハ第三項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テモ町村若クハ町村學校組合ハ特別ノ事情アルトキハ猶郡長ノ許可ヲ受ケテ尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得其小學校ノ位置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十二條 郡長ハ町村學校組合ヲ解カシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

郡長ハ町村内若クハ其一部内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムルコトヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條 町村ハ一町村限リノ負擔ヲ以テ尋常小學校ヲ設置スルニ比シ猶優等ナル尋常小學校ヲ得ヘキ場合又ハ其費用ヲ輕減シ得ヘキ場合ニ於テハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ學校組合ヲ設ケ其學校組合ニ相當スル尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ其學校組合ヲ設クルノ協議ヲナスノ際併セテ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 前條ノ町村學校組合ハ郡長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ解クコトヲ得ス

郡長ハ前條及本條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十五條 府縣知事ハ市内ニ私立尋常小學校アルトキハ其市立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ町村内若クハ町村學校組合内ニ私立尋常小學校アルトキハ其町村立學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務委託ノ事ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十六條 市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ高等小學校ヲ設置シ又ハ其區ヲシテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三十七條 町村ハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ町村學校組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

本條ノ學校組合ニ就キテハ第三十四條ヲ適用ス

第三十八條 第三十六條及第三十七條ノ規程ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス

第三十九條 第三十一條末項第三十三條第三十六條第三十七條及第三十八條ニ掲クル小學校ノ廢止ハ其設立ノ例ニ依ルヘシ

第四十條 市町村ハ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十六條第三十七條及第三十九條ノ規程ヲ適用ス

第四十一條 私立ノ小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ノ設立ハ其設立者ニ

於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其廢止ハ之ヲ府縣知事ニ上申スヘシ

第四十二條 第四十條及第四十一條ノ學校等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五章 小學校ニ關スル府縣郡市町村ノ負擔及授業料

第四十三條 市町村立小學校ノ設置ニ關ル市町村及町村學校組合並區ノ負擔ノ概目左ノ如シ

一 校舍校地教具體操場農業練習場ノ供給及支持

二 小學校教員ノ俸給旅費等

三 小學校ニ關スル諸費

第四十四條 市町村立小學校ニ就學スル兒童ヲ保護スヘキ者ハ授業料規則ニ依リ授業料ヲ納ムヘシ授業料ハ市町村ニ屬スル收入トス

一家ノ兒童同時ニ數名就學スルトキハ授業料ヲ減スルコトヲ得

市町村長ハ兒童ヲ保護スヘキ者貧窮ナル場合ニ於テハ授業料ノ全額若クハ一部ヲ免除スヘシ

授業料ハ物品若クハ勞力ヲ以テ之ニ代フルヲ許スコトヲ得

授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十五條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ學校組合内ノ某町村ヲシテ其數校中ノ一校若クハ若干校ノ設置ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲシテ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ其學校組合内某町村ヲシテ其委託ノ事ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

本條ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

小學校令

二三七

第四十六條 郡長ニ於テ町村學校組合ノ資力其學校組合ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定シ又ハ町村學校ノ組合ノ一部タル町村ノ資力其學校組合費用ノ分擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ郡ハ郡費ヲ以テ其學校組合若クハ町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十七條 郡長ニ於テ第二十七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ郡ハ郡費ヲ以テ其町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十八條 府縣知事ニ於テ市ノ資力其市ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十九條 府縣知事ニ於テ郡ノ資力第四十六條又ハ第四十七條ノ補助ヲ負擔スルニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其郡ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十條 區長並其代理者及學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村若クハ町村學校組合ノ負擔トス但區長並其代理者及區ノ學務委員ニ關スルモノハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ區ノ負擔トナスコトヲ得

第五十一條 郡視學ノ給料旅費退隱料等ハ郡ノ負擔トス其額及支給方法ハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第五十二條 小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ並小學校教科用圖書審

查委員及審査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第六章 小學校長及教員

第五十三條 小學校ノ教員中小學校ノ某教科目ヲ教授スル者ヲ專科教員トシ其他ノ者ヲ本科教員トス小學校ノ教員中小學校ノ教科目ヲ補助教授シ又ハ一時教授スル者ヲ准教員トシ其他ノ者ヲ正教員トス

第五十四條 小學校ノ教員ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第五十五條 小學校教員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

檢定ハ府縣ニ小學校教員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但シ某種ノ小學校教員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之ヲ施行ス

檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格教員免許狀教員候補者等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十六條 小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十七條 市町村立小學校長及教員ノ名稱及待遇法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五十八條 市町村立小學校長及教員ノ任用解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第五十九條 市町村立小學校長ハ府縣知事其學校ノ教員中ニ就キテ之ヲ兼任スルモノトス(廿六年勅令第二百六十號ヲ以テ第一項第二項第三項刪除)

第六十條 市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ給料額及旅費額標準ノ範圍内ニ於テ教員ニ交付スヘキ給料及旅費ノ額ハ市參事會又ハ町村長

ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ確定ス

市町村立小學校教員ノ給料ノ若干分ハ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得但其歩合ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ定クヘシ

前項ニ依リ換給スル土地ノ使用又ハ物品ノ價格ハ市町村ノ申出ニ依リ監督官廳之ヲ確定シ其確定シタル價格ハ監督官廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ訂正スルコトヲ得又監督官廳ハ前項ノ換給ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ許サハルコトヲ得

第六十一條 小學校長及教員ノ職務及服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十二條 市町村立小學校教員ハ學務委員ニ任セラレタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十三條 小學校長及教員ハ兒童ニ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第六十四條 市町村立小學校長及教員職務ヲ粗略ニシ若クハ職務上遵奉スヘキ指命ニ違背シ又體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ譴責罰俸免職免許狀褫奪トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其業務ヲ停止シ又ハ免許狀ヲ褫奪スヘシ
免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ十四日以内ニ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ニ關スル規則並私立小學校長及教員ノ業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十五條 小學校教員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免許狀ヲ褫奪セラレ、モノトス

第七章 管理及監督

第六十六條 郡ニ郡視學一名ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス

郡視學ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ト同一ノ待遇ヲ受クルモノトス

第六十七條 郡視學ハ郡長ノ指揮命令ヲ受ケテ郡内ノ教育事務ヲ監督ス

第六十八條 府縣知事ハ郡ノ申出ニ依リ特ニ郡視學ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ一名ニ命シテ郡視學ノ名義ヲ以テ其職務ヲ行ハシム

第六十九條 郡視學ニ對スル懲戒處分ハ官吏懲戒例ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

第七十條 市町村長ハ市町村ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス但學校長若クハ

首席教員ノ管理ニ屬スル事務ハ之ヲ監督ス

第七十一條 市町村長ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第二百二十四條町村制第二百八條ヲ適用ス

第七十二條 市ハ教育事務ノ爲市制第六十一條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市長之ヲ任免ス

第七十三條 市ノ學務委員ハ市ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長ヲ補助ス

第七十四條 府縣知事ハ市ノ區長及其代理者ヲシテ市長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七十五條 市ハ教育事務ノ爲市條例ノ規程ニ依リ市内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第七十六條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長區長並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第七十七條 市ノ區長及其代理者並第七十二條及第七十五條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 市制第六十四條第五ノ規程ニ依リ市長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ市制第二百二十四條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 市制第二百二十四條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第七十八條 第七十三條及第七十六條ノ事務執行ニ關スル市長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第七十九條 町村ハ教育事務ノ爲町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

委員中教員ヨリ出ツル者ハ町村長之ヲ任免ス

第八十條 町村ノ學務委員ハ町村ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長ヲ補助ス

第八十一條 府縣知事ハ町村ノ區長及其代理者ヲシテ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第八十二條 町村ハ教育事務ノ爲町村條例ノ規程ニ依リ町村內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十三條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長區長並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十四條 町村ノ區長及其代理者並第七十九條及第八十二條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百一十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第二百一十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十五條 第八十條及第八十三條ノ事務執行ニ關スル町村長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第八十六條 町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學務委員ヲ置フヘシ

町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學校組合內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

本條ノ委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十七條 町村學校組合ノ學務委員ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助ス

府縣知事ハ町村學校組合內ノ區ノ學務委員ヲシテ區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十八條 第八十六條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ組合長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百一十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第二百二十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十九條 第八十七條ノ事務執行ニ關スル組合長及學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 特別ノ事情アル町村若クハ町村學校組合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ學務委員ヲ置カサルコトヲ得

第九十一條 文部大臣ハ私立小學校ニシテ法律命令ノ規程ニ戾ルモノアルトキハ府縣知事ニ命シテ之ヲ閉鎖セシムルコトヲ得

第九十二條 前諸條ニ掲クル教育事務トハ專ラ小學校教育ノ範圍ニ屬スル事務ヲ謂フ

第八章 附則

第九十三條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第九十四條 幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ニ就キテハ本令ノ規程ヲ適用スルコトヲ得但尋常小學校設置ノ義務就學ノ義務等ニ關スル規程ハ此限ニ在ラス

第九十五條 本令ニ依ラスシテ授與シタル小學校教員免許狀ハ仍其効力ヲ有スルモノトス但正教員准教員ノ別ハ文部大臣之ヲ定ム

第九十六條 明治十九年四月勅令第十四號小學校令其他本令ニ牴觸スル成規ハ本令施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

○小學校令ノ施行ニ關スル件 明治二十四年一月廿三日 勅令第五號

朕小學校令ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ハ其全部施行シ雖キ事狀アル地方ニ限り府縣知事ノ具狀ニ依リ文部大臣ノ指揮ヲ以テ其一部ヨリ漸次施行スルコトヲ得

○從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件 明治二十四年三月二日 勅令第十九號

朕明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令ノ施行ニ際シ從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 從來ノ市町村立尋常小學校ハ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ左ノ各款ニ依リ處分スヘシ

一 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ其位置新ニ指定セラレタル市町村立尋常小學校ノ位置ト同一ナルモノハ之ヲ繼續維持スヘシ

二 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ不用ニ屬スヘキモノハ學齡兒童ヲ就

小學校令ノ施行ニ關スル件 從來ノ市町村立學校一時存續ノ件

學セシムルノ準備新ニ整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ

三 兒童教育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第二款ノ例ニ依ルヘシ

四 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレ及兒童教育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第一款第二款ノ例ニ依ルヘシ

五 聯合町村ヨリ成立スル尋常小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル尋常小學校設置區域ニ於テ設置スル尋常小學校ハ其區域ノ學齡兒童教育ノ事業ヲ引繼クヘキ市町村、町村學校組合又ハ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ニ於テ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ

第二條 市町村ニ於テ設置スル從來ノ高等小學校ハ其市町村會ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ其市町村ニ於テ同令第三十六條ノ手續ヲ經タル上之ヲ繼續維持スルコトヲ得

第三條 聯合町村ヨリ成立スル高等小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル高等小學校設置區域ニ於テ設置スル高等小學校ハ其町村聯合會又ハ學區會ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ尙六ヶ月以内之ヲ存續スルコトヲ得

第四條 第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル管理監督ノ事務ハ從來ノ職員ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ擔任スヘシ

第五條 第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル費用及第四條ノ事務ニ係ル費用ハ從來ノ

小學校設置區域ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ負擔スヘシ

第六條 第一條第五款及第三條ニ依リ一時存續シタル小學校ニ係ル事務引繼方等ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定スルコトヲ得

第七條 本令ノ規程ニ依リ難キ場合ニ在テハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ經テ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○私立小學校代用規則

明治二十四年三月十日
文部省令第一號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第三十五條ニ基キ私立小學校代用ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立小學校代用規則

第一條 市ハ其區域内ニアル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

町村及町村學校組合ハ其區域内ニアル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ニ依リ協議ヲ遂クヘキ事項概テ左ノ如シ

一 代用ノ期限

二 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ住スル區域

- 三 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員
- 四 代用私立小學校ニ對スル補助金ノ給否及金額
- 五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル事項
 - 第一條ノ許可ヲ經タル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事項ニ就キ更ニ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 代用ノ期限ハ代用セントスル私立尋常小學校ノ修業年限ノ二倍ニ超過スルコトヲ得ス但期限満ルノ後更ニ代用スルコトヲ得
- 第四條 私立尋常小學校ハ設立以來三箇年ヲ經過シテ教育上相應ノ成績アルモノニアラサレハ代用私立小學校タルコトヲ得ス
- 第五條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
 - 一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ修業年限ヲ改定セントスルトキ
 - 二 小學校令第十一條第二項ノ許可ヲ受ケントスルトキ
 - 三 多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ
 - 四 學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ
 - 五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合
- 第六條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市參事會、町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
 - 一 小學校令第十一條第一項ニ依リ尋常小學校ノ教科目ヲ加除セントスルトキ
 - 二 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第七條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

- 一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ補習科ヲ設置廢止セントスルトキ
 - 二 單級ノ編制ヲ多級ノ編制ニ改メントスルトキ
 - 三 小學校令第十七條及第十八條ニ依リ尋常小學校ニ關シテ許可ヲ受ケントスルトキ
 - 四 學校長教員ヲ任用解罷セントスルトキ
 - 五 第二條第三ノ定員ニ滿タサル場合ニ於テ第二條第二ノ區域外ノ兒童ノ入學ヲ許サントスルトキ
 - 六 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合
- 第八條 代用私立小學校設立者ニ於テ市町村長等ニ報告スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定ス
- 第九條 代用私立小學校授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 代用私立小學校授業料ノ納付上ニ關シ設立者ノ取計ニ異存アル者ハ市町村長若クハ町村組合長ノ處分ヲ請フコトヲ得
- 第十條 代用私立小學校設立者ハ第二條第三ノ定員ニ滿タサル限リハ正當ノ理由ナクシテ第二條第二ノ區域内ノ兒童ノ入學ヲ拒辞スルコトヲ得ス
- 代用私立小學校ノ入學上ニ關スル設立者ノ取計ニ就キテハ前條第二項ヲ適用ス
- 第十一條 監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ學政上ニ必要ナラス若クハ不利ナリト認定スルトキハ其代用ヲ解除スヘシ
- 第十二條 市町村及町村學校組合ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハルトキハ監督官廳ノ處分ヲ請フコトヲ得

代用私立小學校設立者ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ市町村若クハ町村學校組合ト協議ノ上市内ニ在ル學校ニ就テハ府縣知事町村内ニ在ル學校ニ就テハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ府縣知事若クハ郡長ノ處分ヲ請フコトヲ得

本條ノ許可又ハ處分ヲ請フハ三箇月前ニ於テスヘシ但特別ノ事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

第十三條 代用私立小學校設立者ハ先ツ代用解除ノ許可ヲ經ルニアラサレハ其學校ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十四條 府縣知事ハ此規則中ノ條規ニ依リ難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得(二十四年十一月文部省令第十七號ヲ以テ追加)

○小學校設備準則 明治二十四年四月八日 文部省令第二號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十九條ニ基キ小學校設備準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 小學校設備準則
- 第一條 校地ハ日當リ好ク且成ルヘク開豁乾爽ナルヲ要ス
- 校地ハ喧鬧ニシテ授業ニ妨アル場所、危險ナル場所、道德上嫌忌スヘキ場所、停滯セル池水其他凡テ惡臭アリ若クハ衛生上ニ害アル蒸發氣ヲ生スル場所ニ接近スヘカラス
- 校地ヲ擇フニ方リ衛生上ノ利害明ナラサルトキハ醫師ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス
- 第二條 校舍ニハ 天皇陛下及

皇后陛下ノ御影並教育ニ關スル 勅語ノ謄本ヲ奉置スヘキ場所ヲ一定シ置クヲ要ス

第三條 校舍ハ成ルヘク平屋造ナルヲ要ス若シ二階造ナルトキハ成ルヘク幼年生ノ教室ヲ階下ニ置クヲ要ス

校舍ヲ新築スルニ方リテハ將來増加スヘキ生徒ノ員數ヲ見積リテ成ルヘク將來ノ増築ニ便宜ナル計畫ヲ爲シ又ハ成ルヘク豫備ノ教室ヲ設クルヲ要ス

第四條 各教室ノ大サハ其内ニ入ルヘキ机并座席ノ數、大サ及排置方ニ應シテ之ヲ定メ生徒四人ニ付凡一坪ヨリ小ナルヘカラス

各教室ハ一教員ノ同時ニ教授シ得ヘキ員數ノ生徒ヲ容ル、ヨリ大ナルヘカラス

第五條 校舍ハ生徒ノ帽、傘、雨衣、足駄等ヲ置クヘキ場所ヲ備フルヲ要ス

裁縫ノ科目ヲ設クル小學校ハ男女ヲ區別シテ教授セサル場合ニ於テハ該科目ノ爲成ルヘク特別ノ教室ヲ其校舍ニ備フルヲ要ス

手工又ハ工科ヲ設クル小學校ノ校舍ハ工作ノ實地練習ノ爲特別ノ教室ヲ備フルヲ要ス

大ナル小學校ノ校舍ハ圖書標本等ヲ置クカ爲成ルヘク特別ノ場所ヲ備フルヲ要ス

第六條 體操場ハ成ルヘク校舍ニ傍フテ備フルヲ要ス

第七條 農業練習所ハ成ルヘク校舍ニ遠サカラサルヲ要ス

第八條 校舍ニハ堀井戸又ハ水道等ニ依リテ飲料水ヲ供給スルノ備アルヲ要ス

第九條 便所ハ校舍外ニ於テ男女ヲ區別シテ備フルヲ要ス

第十條 校舍ニ傍フテ成ルヘク學校長若クハ首席教員ノ住居及菜園ヲ設クルヲ要ス

第十一條 校具ハ甲乙ノ二種トス

甲種ノ校具ハ専ラ教授ノ用ニ充ツル器具トス尋常小學校ニ於テハ假名ノ掛圖、教員用教科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、地球儀、定木、兩脚規、指數器、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、庶物指教用具ヲ備フルヲ常例トシ高等小學校ニ於テハ教員用教科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、萬國地圖、地球儀、定木、兩脚規、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、博物標本、理化器械、圖書ノ手本、圖書用具、裁縫用具、樂器、體操器械ヲ備フルヲ常例トシ其他ハ學校ノ等位、學級ノ編制又ハ教科若クハ教科目ノ種類ニ應シテ備フヘキモノトス

乙種ノ校具ハ國旗、門札、生徒用及教員用ノ机及腰掛(腰掛ヲ用フル學校ニ限ル)時計、諸帳簿、硯箱並附屬品、紙、書籍棚、戸棚、日用品其他學校ニ備付クルヲ必要トスル物件ニシテ甲種ノ校具ニ屬セサルモノトス

第十二條 生徒用ノ机及腰掛ノ構造ハ生徒ノ衛生上ニ害ナカラシメ及生徒ノ監視上等ニ便利ナラシムルヲ要ス

第十三條 第二條ニ掲クル場所、校舍ノ内部外部ノ壁、校舍ノ床、階梯、出入口、廊下、屋根、教室ノ天井、戸、梁、窓、便所、體操場、農業練習場、教員住居及井戸等ノ構造並教室天井ノ高さ、教室ノ幅及長サノ制限、暖室、通風、採光ノ方法等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十四條 校具ハ構造排置等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌ノ之ヲ規定スルヲ要ス
第十五條 校舍、校地、校具等ノ掃除及保存ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十六條 設備規則中ノ條規ニシテ校舍ノ新築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其時ヲ待テ之ニ依ラシムヘキモノトス但猶豫スヘカラサル事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

明治二十三年十月二日
法律第九十號

朕市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

第一條 市町村立小學校ノ正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第三條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七

マテノ増加退隱料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ

一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第四條 官吏恩給法第五條第一項第四項第六條第十一條ハ退隱料ニ適用ス

退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數ノ算定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

一 失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

四 第二條第二第三條若クハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者復タヒ其職務ニ堪フルニ至ルコトアル

モ仍府縣知事ヨリ任命セラル、所ノ教職ニ就カサルトキ又ハ第二條第三ニ依リ退隱料ヲ受クル

者府縣知事ヨリ任命セラル、所ノ教職ニ就カサルトキ但其給料ハ退職現時ノ給料ヨリ少額ナラ

ス且年齢未タ六十歳ニ至ラサル場合ニ限ル

五 府縣知事ノ許可ヲ經スシテ公務ニ就キタルトキ

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其時間退隱料ヲ受クルコトヲ得ス

一 公務ニ就キ退職現時ノ給料額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二 三箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ

第六條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職

ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スル者ニ限り

退職現時ノ給料四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第八條 在職滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ハ退職現時ノ給料二箇月

分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ給料三箇月分ニ當ル金員ヲ給ス

第二條第三條又ハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラ

レ若クハ失職ニ該當シタル者又ハ前項ノ給料ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ請求セサ

ル者ハ前項ノ限ニ在ラス

自己ノ便宜ニ依リ本條第一項ノ給與ヲ受ケサル者他日市町村立小學校正教員ノ職ニ就クトキハ前ノ

在職年數ヲ以テ退隱料等ノ給與上ニ關スル在職年數ニ算入スヘキモノトス但其給與ヲ受クヘキ事由

ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ受ケサルコトヲ申立テサル者ハ本文ノ限ニ在ラス

第九條 退隱料ノ支給及第八條ノ給與ハ市町村長ノ證明ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十條 市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受ク

ルノ權利ヲ有ス

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十一條 官吏遺族扶助法第四條第一項第二項第五條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規

定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死

去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癡疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職三年未滿ニシテ在職最終ノ給料一箇月分ニ當ル金員トシ三年以後滿一年毎ニ給料年額百分ノ二ニ當ル金員ヲ加フ

第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第八條及第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス

市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

市町村立小學校正教員ハ其給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

本條第二項及第三項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其利子ヲ以テ退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第二項第三項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額四分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス

退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部

大臣之ヲ定ム

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條 此法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條納金收入ニ關スル件

明治二十四年十月九日
文部省訓令第三號

明治二十三年十月十日 法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ納金收入ニ關スル規則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

明治二十三年十月二日
法律第九十一號

朕府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條納金收入ニ關スル件
府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

第一條 府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

第二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第四條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪サルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第五條 官吏恩給法第五條第一項第四項第五項第六條及第十一條ハ退隱料ニ適用ス

第六條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニ準スヘキ官立公立學校職員ヨリ府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニ轉シタル者ハ該官立公立學校ニ於ケル勤務ノ年數ヲ退隱料等ノ給與上在職年數ニ算入スヘキモノトス其在職年數ノ算定ニ關スル規則並府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニ準スヘキ官立公立學校職員ト認ムヘキ者ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

一 失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

四 第三條第二條第四條若クハ第九條ニ依リ退隱料ヲ受クル者復タヒ其職務ニ堪フルニ至ルコトアルモ仍官ヨリ指命セララル、所ノ教職ニ就カサルトキ又ハ第三條第三ニ依リ退隱料ヲ受クル者官ヨリ指命セララル、所ノ教職ニ就カサルトキ但其俸給ハ退職現時ノ俸給ヨリ少額ナラス且年齡未タ六十歳ニ至ラサル場合ニ限ル

五 府縣知事ノ許可ヲ經スシテ公務ニ就キタルトキ

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其時間退隱料ヲ受クルコトヲ得ス

一 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二 三箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ

第八條 年齡未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第九條 府縣立師範學校及公立中學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第四條ニ該當スル者ニ限リ退職現時ノ俸給四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第十條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員在職滿一年以上五年未滿ニシテ退職シタル者ハ退職現時ノ俸給一箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給二箇

月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給三箇月分ニ當ル金員ヲ給ス

第三條第四條又ハ第九條ニ依リ退職料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者又ハ前項ノ給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ請求セサル者ハ前項ノ限ニ在ラス

自己ノ便宜ニ依リ本條第一項ノ給與ヲ受ケサル者他日府縣立師範學校及公立中學校長正教員ノ職ニ就クトキハ前ノ在職年數ヲ以テ退職料等ノ給與上ニ關スル在職年數ニ算入スヘキモノトス但其給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ受ケサルコトヲ申立サル者ハ本文ノ限ニ在ラス

本條ノ給與及之ニ關スル費用ハ退職ノ際勤務セシ學校所屬府縣都市町村ノ負擔トス

第十一條 退職料ノ支給ハ府縣知事ノ證明ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退職料ニ適用ス

第十二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退職料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十三條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死

去シタル者ノ戶籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給與スル者ナキ場合ニ適用ス

第十四條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニシテ在職十五年未滿ノ者在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ニ就キテハ官吏遺族扶助法第十七條第二項ヲ適用ス

第十五條 扶助料及扶助金ノ支給並第十三條第二項ノ給與ハ府縣知事ノ申牒ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

第十六條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ハ其俸給百分ノ一ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ府縣都市町村ハ其府縣立師範學校及公立中學校長正教員ノ俸給百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

第十七條 退職料扶助料扶助金及第十三條第二項ノ給與並其支給ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

退職料扶助料扶助金等ノ支給ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 同一人ニシテ國庫ヨリ二種以上ノ退職料又ハ扶助料ヲ受クヘキ者アルトキハ本人ノ所擇ニ任セ其一ヲ給スルモノトス

第十九條 府縣立師範學校及公立中學校書記ノ退職料等ハ府縣知事郡長市町村長ニ於テ府縣都市町村會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムルコトヲ得

府縣立師範學校及公立中學校並市町村立小學校ニアラサル公立學校職員ノ退職料等ハ前項ノ例ニ依ル本條ノ退職料等及其支給ニ關スル費用ハ其府縣都市町村ノ負擔トス

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法

第二十條 此法律第一條ハ明治二十五年ヨリ第二條乃至第十九條ハ明治二十六年ヨリ之ヲ施行ス
第二十一條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコ
トヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○府縣小學校教員恩給基金管理規則 明治二十四年十月九日 文部省令第七號

明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員退職料遺族扶助料法第十四條ニ基キ府縣小學校教員
恩給基金管理規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

府縣小學校教員恩給基金管理規則

- 第一條 小學校教員恩給基金ハ他ノ府縣有財產ト區分シテ之ヲ管理スヘシ
- 第二條 小學校教員恩給基金ハ現金又ハ公債證書トシ總テ大藏省預金局ニ寄託スヘシ
- 第三條 當該年度ノ支出ニ充テタル小學校教員恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ニシテ殘餘
アルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ恩給基金ニ加入シ又ハ翌年度へ繰越スヘシ
- 第四條 小學校教員恩給基金ノ整理方法ハ特別ノ規定ナキモノハ總テ他ノ府縣有財產ノ例ニ依ル

○尋常中學校高等女學校技藝學校設置ノ爲メ町村學校組合ヲ設クル

ノ件 明治二十六年五月十七日 勅令第三十三號

朕尋常中學校高等女學校技藝學校設置ノ爲メ町村學校組合ヲ設クルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 町村ハ尋常中學校高等女學校又ハ技藝學校ヲ設置センカ爲メ町村制第百十六條第一項ニ依リ
町村學校組合ヲ設クルコトヲ得
前項ノ町村學校組合ヲ解カントスルトキハ町村制第百十八條ニ依ル
- 第二條 前條ノ場合ニ於テ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

○市町村立尋常小學校ニ就學スル兒童ノ授業料ニ關スル件

明治二十六年五月十七日 勅令第三十四號

朕市町村立尋常小學校ニ就學スル兒童ノ授業料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 市町村ハ左ノ場合ニ限リ市町村會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケ尋常小學校ニ就學スル
全員又ハ或學級ノ兒童ノ授業料ヲ徵收セサルコトヲ得
一 學校基本財産ノ收入又ハ寄附金ニ依リ設備及維持ニ供給スルニ足ルトキ
二 設備及維持ニ供給スル爲メ市町村ノ資力ニ對シ市町村稅ヲ過度ニ賦課スルニ至ラサルトキ
- 第二條 府縣知事ハ市町村會ノ議決前條ノ範圍ヲ超エ又ハ將來ニ尋常小學校ノ擴張ヲ妨クルモノト認
ムルトキハ之ヲ許可セサルヘシ

社寺

○神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトヲ管長ニ委スル件 明治十七年八月十一日 太政官布達第十九號

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム

- 第一條 各宗派妄ニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス
- 第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ
但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ
- 第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ「内務卿」ノ認可ヲ得可シ
- 第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ「内務卿」ノ認可ヲ得可シ
 - 一 教規
 - 一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事
 - 一 教師ノ等級進退ノ事
 - 一 以上神道管長ノ定ム可キ者トス
 - 一 宗制
 - 一 寺法
 - 一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事
- 一 寺院ノ住職住免及教師ノ等級進退ノ事

- 一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ存スル事
- 一 以上佛道管長ノ定ム可キ者トス
- 第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ「内務卿」ノ認可ヲ得テ之レヲ稱スルコトヲ得

○神佛各教宗派内ノ者出願處分ヲ要スルトキ願書差出方

明治二十二年五月二十七日 内務省訓令第二十二號

神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニツキ當省ニ出願處分ヲ要スヘキモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ但シ管長其手續ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直ニ當省ニ差出スコトヲ得

○府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件 明治二十七年二月二十七日 勅令第二十二號

朕府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府社縣社及郷社ニ左ノ神職ヲ置ク

- 社司 一人
- 社掌 若干人

神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトヲ管長ニ委スルノ件 神佛各教宗派内ノ者出願處分ヲ要スルトキ願書差出方 府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件

社掌ノ員數ハ社司及氏子(氏子ナキト)總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ
第二條 村社以下神社ニ左ノ神職ヲ置ク

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ氏子(氏子ナキト)總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第三條 社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條 府社縣社及郷社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ承ケテ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ従事ス

第五條 村社以下神社ノ社掌ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ氏子(氏子ナキト)總代ヲシテ社司及社掌ノ候補者ヲ推薦セシメ其ノ中

ヨリ之ヲ補ス

候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 社司及社掌ハ判任官ノ待遇トス

第八條 社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

第九條 本令施行ノ際祠官タル者ハ社司ニ祠掌タル者ハ社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

官有財産管理並土地處分

○官有財産管理規則

明治二十三年十一月二十四日
勅令第二百七十五號

朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則

第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス

第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス

第三條 官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此規則ニ依ルヘシ

第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林

經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル

第六條 官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシム

ハシ 貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得
營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川并木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若ハ官應使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價
第二 賣拂ニ係ルモノハ各應ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格
第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産

第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件
第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲クル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官有地取扱規則 明治二十三年十一月二十四日 勅令第二百七十六號

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則

- 第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス
 - 第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
 - 第三條 各廳ノ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ
 - 第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ
 - 第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ
 - 第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ
 - 第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 - 第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス
- 借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

- 第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地満期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得
- 第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得
- 第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ
- 第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ
- 既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス
- 第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル
- 第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス
- 第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

官有土地水面ニ關スル委任ノ件 明治二十四年七月二十四日 内務省訓令第十四號

官有土地水面ニ關スル委任ノ件

第一條 官有土地水面ニ關スル處分ノ内左ニ掲クルモノハ之ヲ委任ス但處分ノ後内務報告例ニ依リ報告スヘシ

一 官有堤塘道路並木敷港灣河川溝渠溜池用悪水路等ノ新設修繕ニ際シ官有土地水面ヲ其敷地ニ充用スル事

二 北海道ニ於テ警察署郡區役所戸長役場及官立學校病院等ノ敷地ニ官有土地ヲ充用スル事

三 直接公用ニ供シタル官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徴シ季節ヲ限リ一時ノ使用ヲ許シ並從前既ニ許可シタルモノ、繼續使用ヲ許ス事

四 明治二十三年七月勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第二條ニ依リ官有土地水面ノ使用ヲ許ス事

五 直接公用ニ供セサル五町歩以下ノ官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徴シ貸付スル事

六 府縣ニ於テ五町歩以下ノ官有土地ヲ明治二十三年七月勅令第二百七十六號官有地取扱規則第七條ニ依リ貸付スル事

七 直接公用ニ供セサル官有土地水面市街ニ在テハ百五十坪以下村落ニ在テハ三段歩以下ノ箇所ヲ賣拂フ事

八 府縣ニ於テ豫約代價ヲ以テ開墾既成ノ土地ヲ賣拂フ事

九 明治二十三年七月勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第三條並同年七月勅令第二百七十五號官有財產管理規則第十二條及第十三條ニ依リ一段歩以下ノ官有土地水面ヲ讓與スル事

十 明治二十三年七月當省訓令第三十六號ニ依リ直接公用ニ供シタル官有水面一町歩以下ヲ埋立ツル事並同上ノ訓令ニ依リ埋立成功ノ後其土地ヲ處分スル事

十一 官有土地水面ニ屬スル土石砂利並水陸ノ生産物ヲ賣拂フ事

十二 官有土地ニ屬スル枯損障害又ハ測量ニ支障アル竹木ヲ伐採シ及處分スル事並盜伐誤伐ニ係ル竹木處分ノ事

十三 天災事變ニ際シ公益ノ爲メ必要已ムコトヲ得サル場合ニ於テ官有土地ニ屬スル木竹ヲ伐採シ及處分スル事

十四 各廳ノ所用ニ供スルモノヲ除ク外民有土地ノ寄付ヲ受納シ並民有土地ノ上地ヲ許可スル事

十五 前各項ノ處分其他官廳ノ處分又ハ形質ノ變更所用ノ廢改等ニ基キ官民有土地水面ノ種目ヲ變換スル事但皇宮地及各廳ノ所用地ニ關スルトキハ此限ニアラス

第二條 前條ノ官有土地水面ニシテ當省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川及國道港灣河口ニ關係アルモノハ先ツ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ(廿七年訓令第三號ヲ以テ改正)

官國幣社延喜式内國史現在神社境内ニ關係アルモノモ亦本大臣ニ稟議スヘシ

第三條 明治八年五月當省達乙第六十五號第一項及第二項並同十二年六月當省達乙第二十九號同十七年二月當省達乙第十號ハ之ヲ廢止ス

○地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ件 明治二十四年五月二十二日
地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ
前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用悪水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ件